

史跡 松前氏城跡

# 福山城跡 VIII

—平成23年度 発掘調査報告書—

2012.3

北海道松前町教育委員会



# 例 言

1. 本書は平成23年度に松前町が実施した史跡松前氏城跡福山城跡（B-02-53）の遺構確認調査報告書である。
2. 本発掘調査は、平成23年6月1日から平成23年10月31日までの間、次の体制で実施した。

調査主体者：松前町教育委員会                      教育長 森 定 勝 廣

調査担当者：文化社会教育課                      主 幹 前 田 正 憲

調査員：文化社会教育課                      学芸員 佐 藤 雄 生

作業員：皆月ユキ、竹内照子、岡田真理子、高橋キヌ子、吉田多加子、渡邊真理子、今本伸行、水牧 武、山田克夫

3. 本書の編集は、前田が行ない、執筆は前田・佐藤がそれぞれ分担し、末尾に執筆者名を記した。
4. 出土遺構の測量・実測・整理・トレースは佐藤・竹内が行なった。
5. 出土遺物の実測・トレースは竹内・皆月・今本が行なった。

6. 図版作成は佐藤・竹内が行ない、写真撮影は佐藤が行なった。

7. 調査期間中、次の諸機関からご指導ご協力をいただいた。

文化庁記念物課、北海道教育委員会、渡島教育局、財団法人 北海道埋蔵文化財センター、函館市教育委員会、七飯町教育委員会、知内町教育委員会、江差町教育委員会、上ノ国町教育委員会、厚沢部町教育委員会

8. 調査に関する諸記録・資料は松前町教育委員会が保存・管理する。

# 目次

例言	i	4. まとめ	17
I はじめに		III 光善寺庭園の調査	
1. 調査の経緯	1	1. 調査の経過	19
2. 調査の目的と成果	3	2. 出土遺構	19
3. 調査の方法	5	3. 出土遺物	31
II 堀廻り地区の調査		4. まとめ	33
1. 調査の経過	7	参考文献	36
2. 出土遺構	7	報告書抄録	55
3. 出土遺物	11		

# 挿図目次

第1図 遺跡位置図	iv	第13図 幕末期地形地割り復元図（光善寺周辺）	18
第2図 調査区位置図	2	第14図 光善寺庭園調査位置図	20
第3図 史跡『松前氏城跡福山城跡』周辺遺跡分布図	4	第15図 光善寺庭園TP-8・9平面図・セクション図	21
第4図 堀廻り地区調査位置図	6	第16図 光善寺庭園TP-10・11平面図・セクション図	22
第5図 堀廻り地区滝口付近遺構配置図	8	第17図 光善寺庭園TP-12平面図	24
第6図 堀廻り地区TP-1平面図・セクション図	9	第18図 光善寺庭園TP-12セクション図	25
第7図 堀廻り地区TP-2・3平面図・セクション図	10	第19図 光善寺庭園TP-13・14平面図・セクション図	26
第8図 堀廻り地区TP-4・5平面図・セクション図	12	第20図 光善寺庭園TP-15・16平面図・セクション図	28
第9図 堀廻り地区TP-6・7平面図・セクション図	13	第21図 光善寺庭園TP-17・18セクション図	29
第10図 堀廻り地区TP-8～10平面図	14	第22図 光善寺庭園出土遺物（1）	30
第11図 堀廻り地区TP-8～10セクション図	15	第23図 光善寺庭園出土遺物（2）	32
第12図 堀廻り地区出土遺物	16	第24図 光善寺庭園出土遺物（3）	34

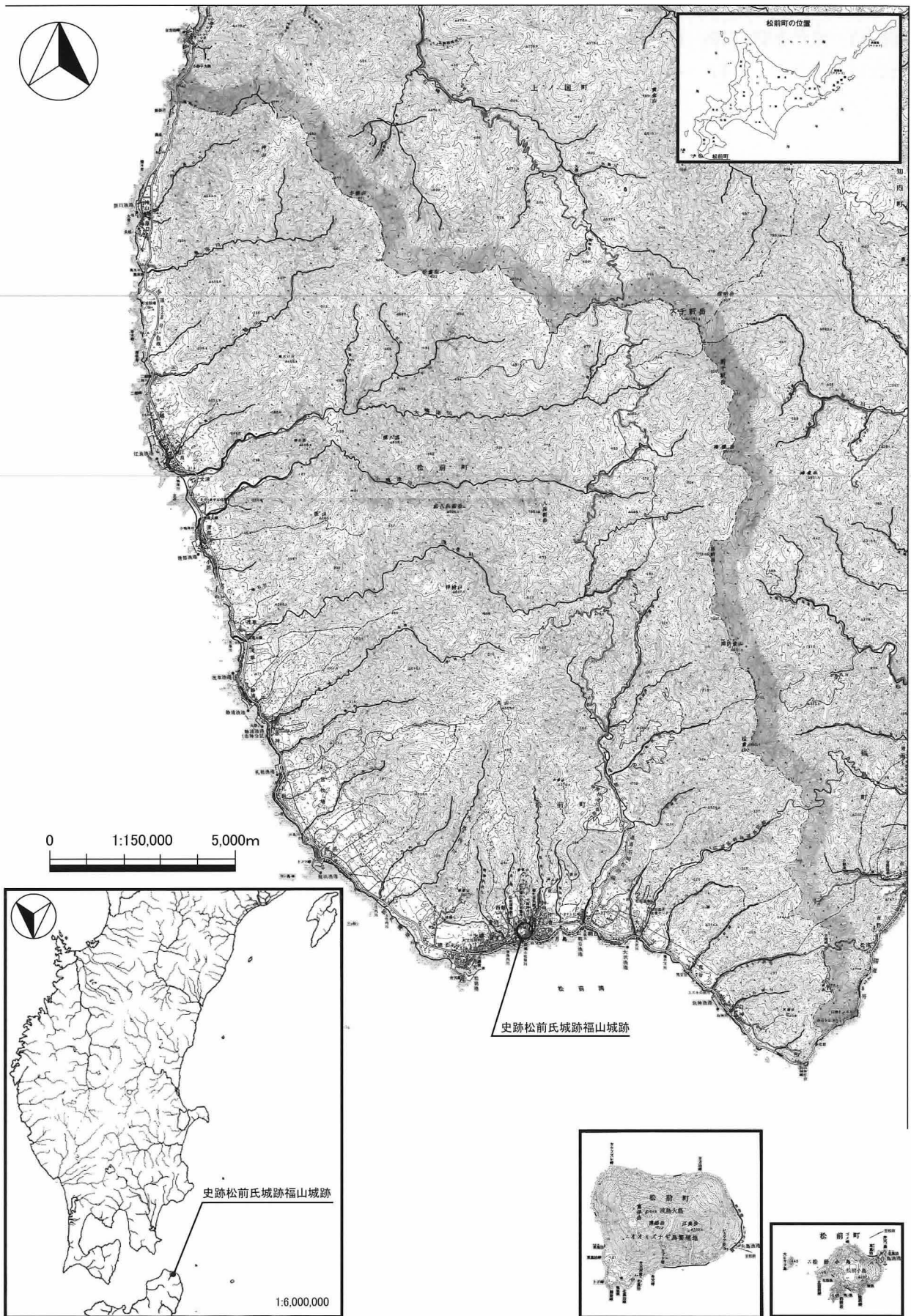
# 写真図版

図版1 堀廻り地区TP-1・2	39	図版7 光善寺庭園全景	45
図版2 堀廻り地区TP-2～6	40	図版8 光善寺庭園TP-8・9	46
図版3 堀廻り地区TP-4～6	41	図版9 光善寺庭園TP-10・11	47
図版4 堀廻り地区TP-7～10	42	図版10 光善寺庭園TP-11	48
図版5 堀廻り地区TP-9・10	43	図版11 光善寺庭園TP-12	49
図版6 堀廻り地区TP-10・出土遺物	44	図版12 光善寺庭園TP-12	50

図版13 光善寺庭園TP-13・14 .....	51	図版15 光善寺庭園TP-17・18 .....	53
図版14 光善寺庭園TP-15・16 .....	52	図版16 光善寺庭園出土遺物.....	54

## 図表目次

表1 年度別調査一覧表.....	1	表3 堀廻り地区出土遺物観察表.....	35
表2 出土遺物一覧表.....	5	表4 光善寺庭園出土遺物観察表.....	35



第1図 遺跡位置図

# I はじめに

## 1. 調査の経緯

史跡松前氏城跡 福山城跡の遺構確認調査は、昭和 55 年度から開始し、今回で 26 回目を数える。これまでの発掘調査により、以下のように遺構の規模・構造が明らかになってきた。

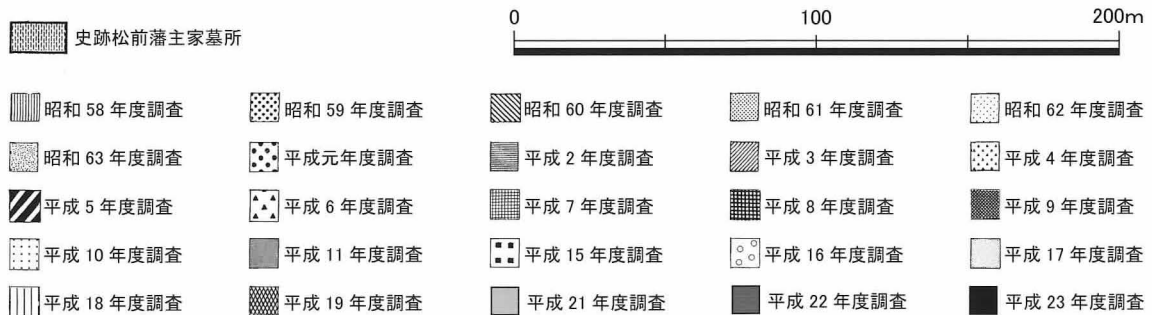
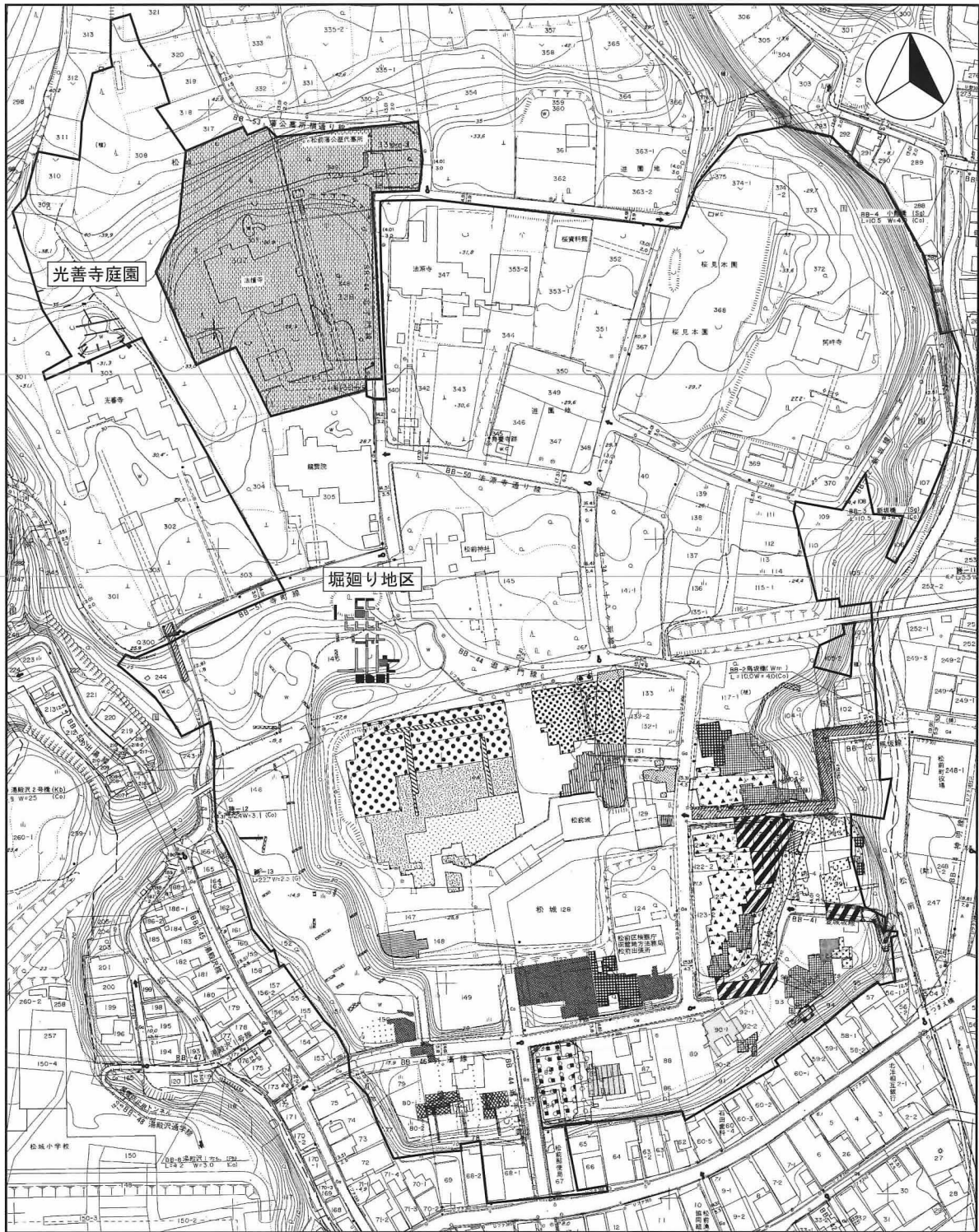
表 1 年度別調査一覧表

年度	調査地点	確認遺構	調査面積
昭和55年度	試掘12箇所	内堀・外堀	146㎡
昭和58年度	本丸	内堀・空壕	270㎡
昭和59年度	本丸	内堀・空壕	850㎡
昭和60年度	本丸	本丸表御殿	188㎡
昭和61年度	本丸	搦手門・御多門	170㎡
昭和62年度	本丸	本丸表御殿・排水溝	880㎡
昭和63年度	本丸	本丸表御殿・西堀石垣・排水溝	1,500㎡
平成 元年度	本丸	本丸表御殿、西堀石垣・西土手・西門跡 御導場跡・地下蔵様遺構・空壕跡・外堀	1,800㎡
平成 2年度	本丸	南西隅櫓・杭列・井戸・外堀	300㎡
平成 3年度	三ノ丸東部	石垣・外堀・馬坂周辺石垣	200㎡
平成 4年度	三ノ丸東部	外堀・馬坂門・橋・御鉄砲置所・御番所・七番御台場・土居・東部石垣・杭列・側溝・水路跡	1,980㎡
平成 5年度	三ノ丸東部	外堀・三本松土居・天神坂門	1,172㎡
平成 6年度	三ノ丸東部	二重太鼓櫓、土蔵、土居、搦手門	1,600㎡
平成 7年度	東郭・二ノ丸・三ノ丸東部	二重太鼓櫓、隅櫓、五番・六番台場、東郭土居、三ノ丸土居	1,095㎡
平成 8年度	東郭・二ノ丸	番所、追手門、追手升形石垣	569㎡
平成 9年度	二ノ丸	二ノ丸番所・追手枳形・外堀	1,161㎡
平成10年度	三ノ丸西部	一番台場・二番台場	530㎡
平成11年度	三ノ丸東部	外堀・六番台場	100㎡
平成15年度	三ノ丸西部	馬出門・天神坂・三ノ丸石垣	807㎡
平成16年度	三ノ丸南部	馬出門・馬出升形・三ノ丸石垣	900㎡
平成17年度	三ノ丸南部	三番台場・四番台場・馬出門・沖ノ口升形	650㎡
平成18年度	三ノ丸南部・西部	二番台場・馬出升形	1,125㎡
平成19年度	三ノ丸西部・堀廻り	一番台場・二番台場・本丸土居・水路跡	600㎡
平成20年度	堀廻りを予定したが中止		
平成21年度	堀廻り	溝口・本丸土居	105㎡
平成22年度	堀廻り・光善寺庭園	溝口・本丸土居石垣根石・根掘り跡・庭池	94㎡
平成23年度	堀廻り・光善寺庭園	本丸土居石垣根掘り跡・土壘・庭池・州浜・溝口石組・築山	125㎡

以上のように各年度の調査を終えた。史跡整備は、昭和 50 年度に策定した第 1 次保存管理計画に基づき、初期には本丸の御殿復元を目指し、本丸部を主体に調査行ってきた。しかし、発掘調査の結果、遺構の保存状態が余り良くなかったため、次第に保存状態の良好な二ノ丸・三ノ丸南東部の調査に移行して行った。そして、この南東部地区について、集中的に調査・整備する方針が、平成 5 年度の松前町史跡福山城整備検討委員会で承認され、文化庁・北海道教育委員会の指導の下に各種資料調査や条件整備を進めてゆき、平成 8 年度には、この整備をふまえた第 2 次保存管理計画が策定された。

平成 11 年度から「ふるさと歴史の広場」事業を開始し、平成 14 年度までの 4 年間で、城内二ノ丸・三ノ丸地区南東部を集中的に整備した。この地区の整備によって、搦手二ノ門・天神坂門（高麗門）・土堀（115 m）・高欄付木橋・土居石垣・外堀・七番台場などが復元され、城郭を実物大で体験出来るとともに、縮小模型も設置し城郭全体の構造や立地などを、より一層理解出来るようになった。

なお、この集中整備事業で、石垣石を多量に使用したことから、当時の石垣石の採掘場では、石材の枯渇が危惧された。そこで 16 年度以降の整備事業計画の基本方針として、「緊急的な課題は、石垣石の確保と整備計画書の策定である。中期的な課題として寺町庭園整備が挙げられる。そして、長期的な課題としては、史跡周



第2図 調査区位置図



辺地も含めた各ゾーンの調和のとれた整備となろう」とし、「石垣石の採掘が望めた場合は外堀を中心とした、二ノ丸、三ノ丸の復元的整備重点ゾーンの整備が見込める」また、石垣石の採掘が「望めない場合は石垣石を必要としない平場整備が中心となり、本丸、東郭、北郭、二ノ丸、三ノ丸の平面表示、土塁復元、堀廻りの修景などの広域的な、一般整備・多機能整備重点ゾーンの整備が見込める。当然、そのゾーンのみにとらわれることなく周辺地域の環境整備も必要に応じて実施する。その中で、寺町地区の整備については、新年度から検討を開始する」とした。

また、平成16年度に、従来石垣石の採掘場としていた更に西側の国有地を町が購入し、石垣石の新採掘場所として確保した。そして、平成17年度の史跡整備事業で、石垣修理のため石垣石の採掘を開始するための作業道を掘削したところ、幕末の石垣遺構が発見された。さらに、周囲を踏査したところ、石の切り出し遺構も発見されたので、遺構が発見されたこの一帯を、平成17年11月14日付で「神明石切り場跡」の名称で埋蔵文化財包蔵地として登載した。また、直ちに文化庁に報告し今後の指導を仰いだところ、「神明石切り場跡」の範囲確認調査を行うよう指示があり、平成18年度から国庫補助事業の町内遺跡で、この石切り場跡の「範囲内容確認調査」を開始した。これによって、当採掘地から、整備のための石垣石の切り出しは、「神明石切り場跡」の範囲内容確認調査が終了するまで全く見込めなくなった。

そこで、平成16年度に策定した整備の基本方針で述べている、石垣石が「望めない場合」の「土塁復元、堀廻りの修景などの広域的な、一般整備・多機能整備重点ゾーンの整備」を実施する方向で整備を進めることにし、平成18年度には「三ノ丸」にある、三番台場・馬出升形の遺構確認調査を行った。

そして、平成19年度からは、石垣石をほとんど必要としない、本丸西側に隣接した「堀廻り地区」を整備するためのトレンチによる遺構確認調査を開始したのである。また、平成20年度には調査担当者が体調を崩したため、史跡整備事業を中止した。さらに、平成21年度は、平成20年度に予定していた事業内容を実施したが、堀廻り（滝口地区）の調査が急傾斜のため予想以上に手間取ったため、三番台場の調査を中止した。そして22年度は、「堀廻り地区」と「本丸土居」及びその周辺で、滝口北側土塁の旧地形の確認と、さらに寺町地区にある「光善寺庭園」の名勝指定に向けた詳細内容調査を実施した。

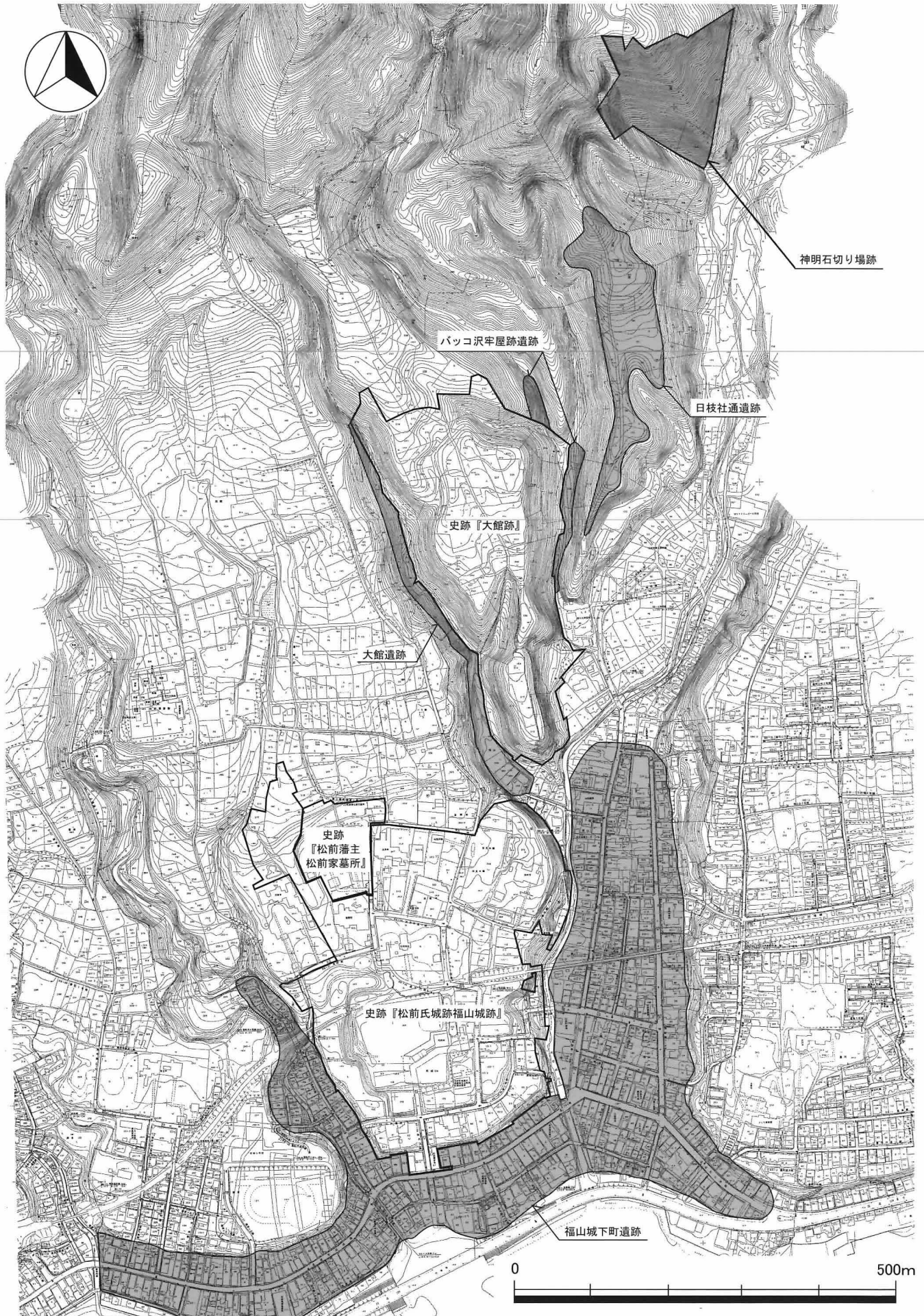
本年土坡本丸土居の旧地形の確認のための試掘調査と、光善寺庭園の池畔確認のための試掘調査を実施した。

(前田)

## 2. 調査の目的と成果

今回の試掘調査によって発見した遺構は以下の通りである。また、出土遺物については表2に示す。

- |          |               |
|----------|---------------|
| 1) 堀廻り   | 本丸土居石垣根掘り・土塁  |
| 2) 光善寺庭園 | 滝口石組・州浜・庭池・築山 |



第3図 史跡『松前氏城跡福山城跡』周辺遺跡分布図

今年度の調査により、本丸土居側旧地形が概ね判明した。また、滝口石組は明治以降、公園化した際に構築された可能性が極めて高い。また、本丸土居石垣はほぼ抜き取られ、盛り土による整地がなされていたが、根掘りや旧地形を検出することができ、安政元年（1854）築城時に描かれた『福山城見分図』と位置関係が一致した。

光善寺庭園については、滝口石組・庭池・東西出島・築山のおおよその構築年代が判明したが、導水・排水遺構を検出するには至らなかった。

（前田）

### 3. 調査の方法

基準点から光波測距儀で、出土遺構についての輪郭線・端点の測量を直営で行った。調査区トレンチについても同様に位置を起し、出土遺構については3次元測量を行なった。当然、手実測による図面も必要に応じ平面図・断面図・立面図を1/10, 1/20で作成したので、座標上に詳細な実測図を正確に置くことが出来た。法面にある長い土層断面図については、分層の分岐点を測量し手実測との整合性を高めた。出土遺物については手実測とともに三次元測量をして取り上げた。記録写真についてはデジタルカメラを多用し、データ保存に努めた。

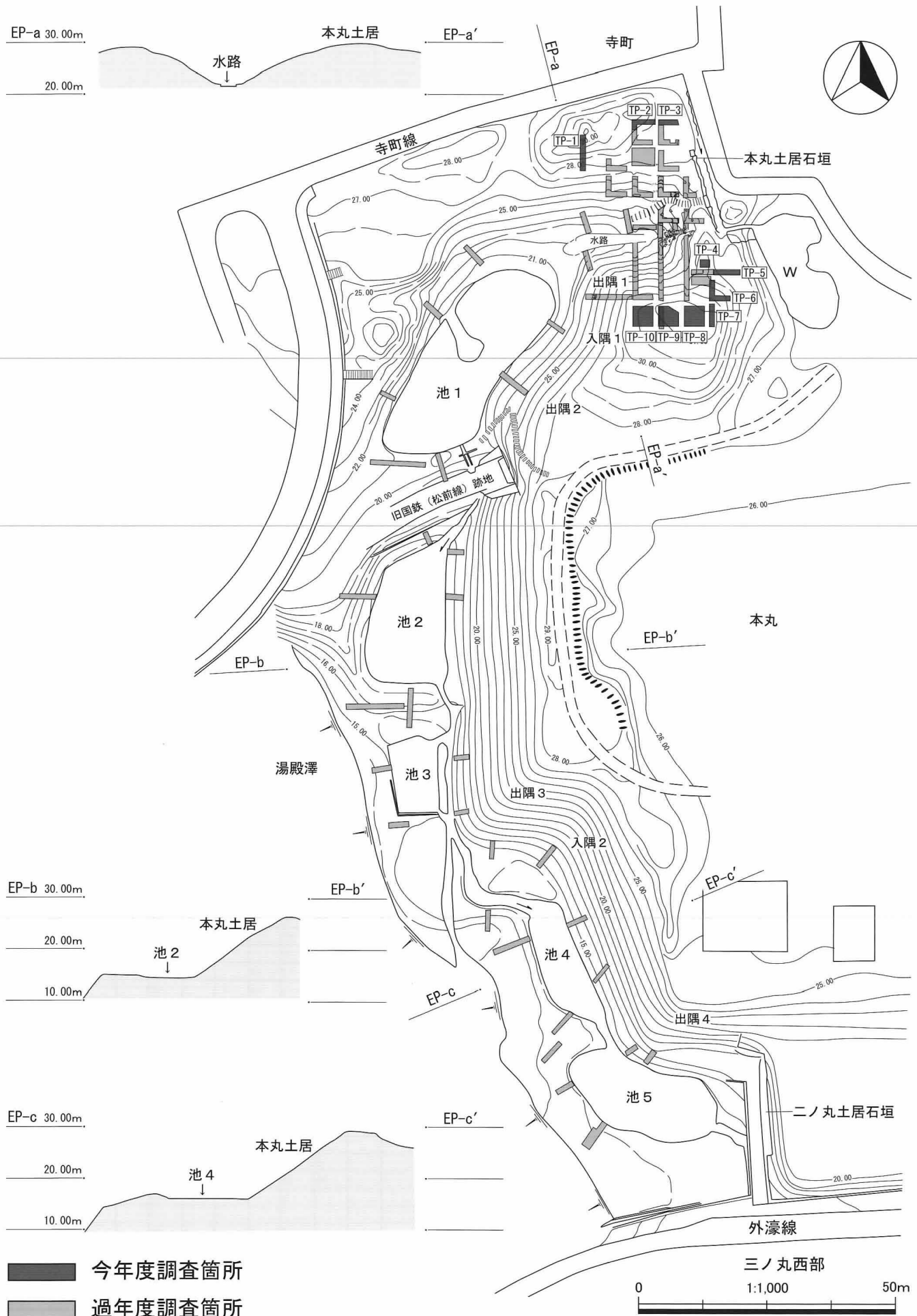
整理作業については測量データをもとに、実測図面の浄書（第二原図）を作成し、これをデジタルトレースした。遺物実測については、写真実測を多用し、デジタルトレースをした。

発掘調査は6月1日から開始し10月31日に終了した。整理作業は11月1日から開始し3月22日まで実施した。

（前田）

表2 出土遺物一覧表

遺構・地区	磁器					陶器						その他						計		
	碗類	皿類	鉢類	徳利類	その他	碗類	皿類	鉢類	福鉢	徳利類	壺・壺類	その他	ガラス類	木製品	金属類	瓦	コンロ		土器	その他
『史跡 福山城』 堀廻り地区																				
TP-1	25	15	1		18				3		11	16	15		1	24			24	153
TP-2・3	20	15		1	13			1	4	2	15	25			4	8			48	156
TP-4	3									2		5			1	2			38	51
TP-5	2	1									12	3	16		1	1			3	39
TP-6	13	7		1	2	1		10	1	2	4		3		1	17			13	75
TP-7	16	3		1	11		1	5	3	1	5	6	8		3	74	1		16	154
TP-8	4				1	2	3	1		1	5	1	30		4	124			17	193
TP-9	17	6		1	3	1		1	1	1	3	5	19		5	44			13	120
TP-10	17	7	1		7	2		1		8	11	27	14		3	117			9	224
排土	2									3	17	5	1		1	9			9	47
『史跡 福山城』 光善寺庭園																				
TP-8	7	3	1		3			1		2		8	1		7	14			155	202
TP-9	8	2	2		2			1	1	1	2	5	2		1	1			211	239
TP-10	6				10						4	4			4	24			45	97
TP-11	9	3	1	1	13			3			2	11	6		4	214	1		34	302
TP-12	32	8			10	1		1	1	7	23	29	14		9	447			366	948
TP-13					1								2				110		26	139
TP-14	1															7			117	125
TP-15	6	1			1				1	1		2	5		1	69			67	154
TP-16	1										1	1	1		1	6			100	111
TP-17	3										2	7				13			275	300
TP-18	1																		58	59
合計	193	71	6	5	95	7	4	25	15	31	117	162	135		51	1325	2		1644	3888



第4図 堀廻り地区調査位置図

## II 堀廻り地区の調査

### 1. 調査の経過

#### 第4図 堀廻り地区調査位置図、第5図 堀廻り地区滝口付近遺構配置図

平成19年度より調査が開始された「堀廻り地区」は、平成16年度策定の整備方針に沿って整備を行うものであり、今年度は本丸土居石垣及び堀廻り地区北側の土塁の調査を行った。

堀廻り地区北側の土塁では3ヶ所のトレンチ調査を、本丸土居石垣側では4ヶ所のトレンチ調査及び3ヶ所の平面発掘調査を行った。

なお、堀廻り地区北側の土塁上には多数のツツジが植わっていることから、トレンチにかかったものは根から掘り起こし、史跡外の公園に移植した。また、土塁上には幕末期に植えられたとみられる赤松もあることから、根を傷つけないよう注意を払って掘削を行った。

(佐藤)

### 2. 出土遺構

#### 第6図 堀廻り地区TP-1平面図・セクション図

##### ・TP-1

堀廻り地区と寺町地区の境界に、幅約25mの土塁がある。この土塁は瘤が二つ並んだ形状を呈しており、西側頂上が高さ約2.5m、東側頂上が高さ約1.5mとなっている。西側の土塁上に南北方向のTP-1を設定した。頂上に植わっている赤松の根を保護するため、土塁頂上まではトレンチを延長していない。

土層11)・13)・17)・18)の上面は非常に硬く締まっていることから、嘉永3年築城以前の旧地表面とみられる。また、当該地点には福山館期に木堀があったことが『松前奉行所経営地割図』・『松前自沖口至奉行所図』(いずれも国立公文書館内閣文庫所蔵)といった絵図から判明しており、土層14)がその遺構という可能性はあるものの、部分的なトレンチ調査であることから断定するには至らなかった。土層1)～10)は安政元年新城完成以降の堆積で、19世紀中葉の陶磁器やグリーンタフ片が含まれる。

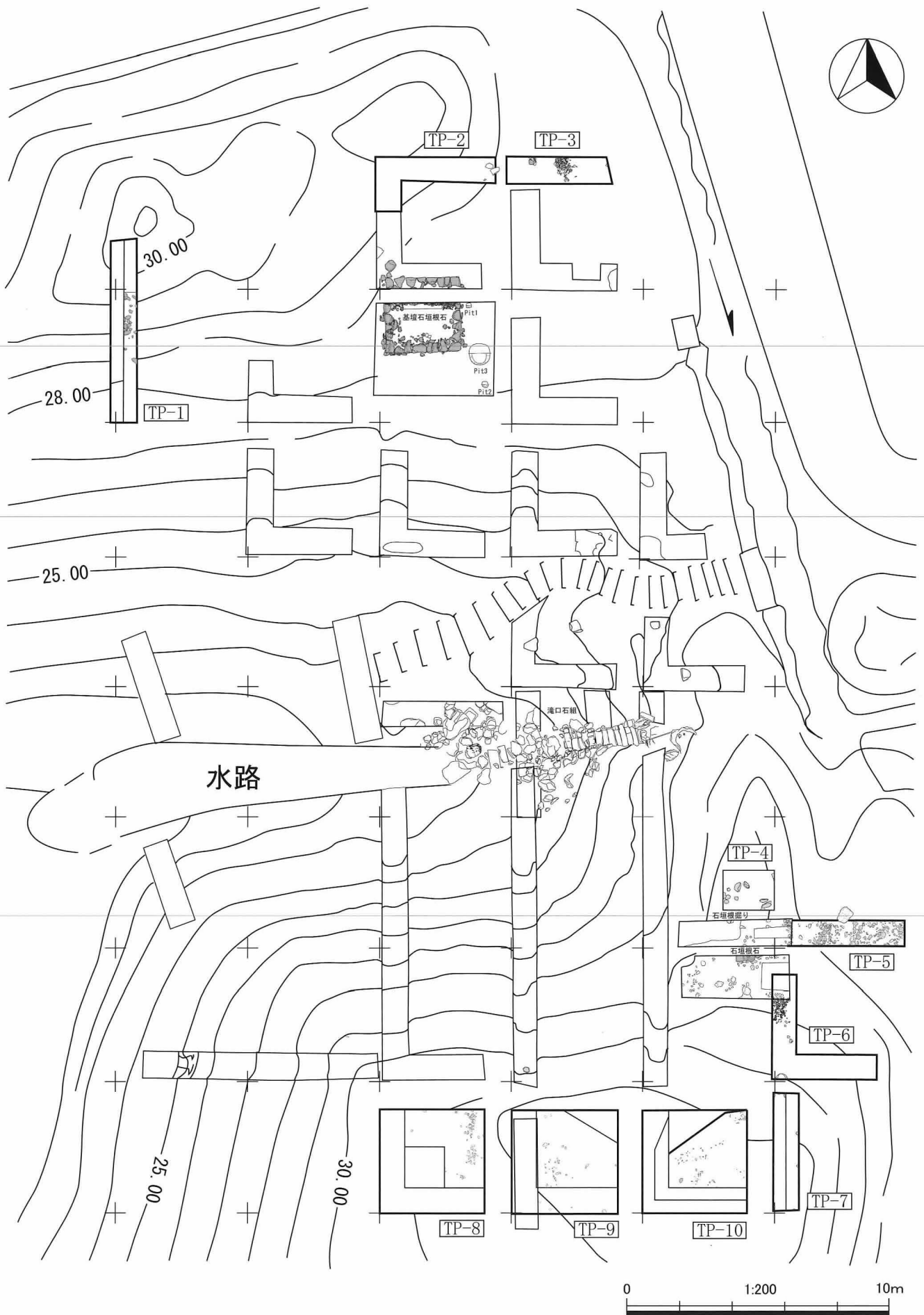
#### 第7図 堀廻り地区TP-2・3平面図・セクション図

##### ・TP-2、TP-3

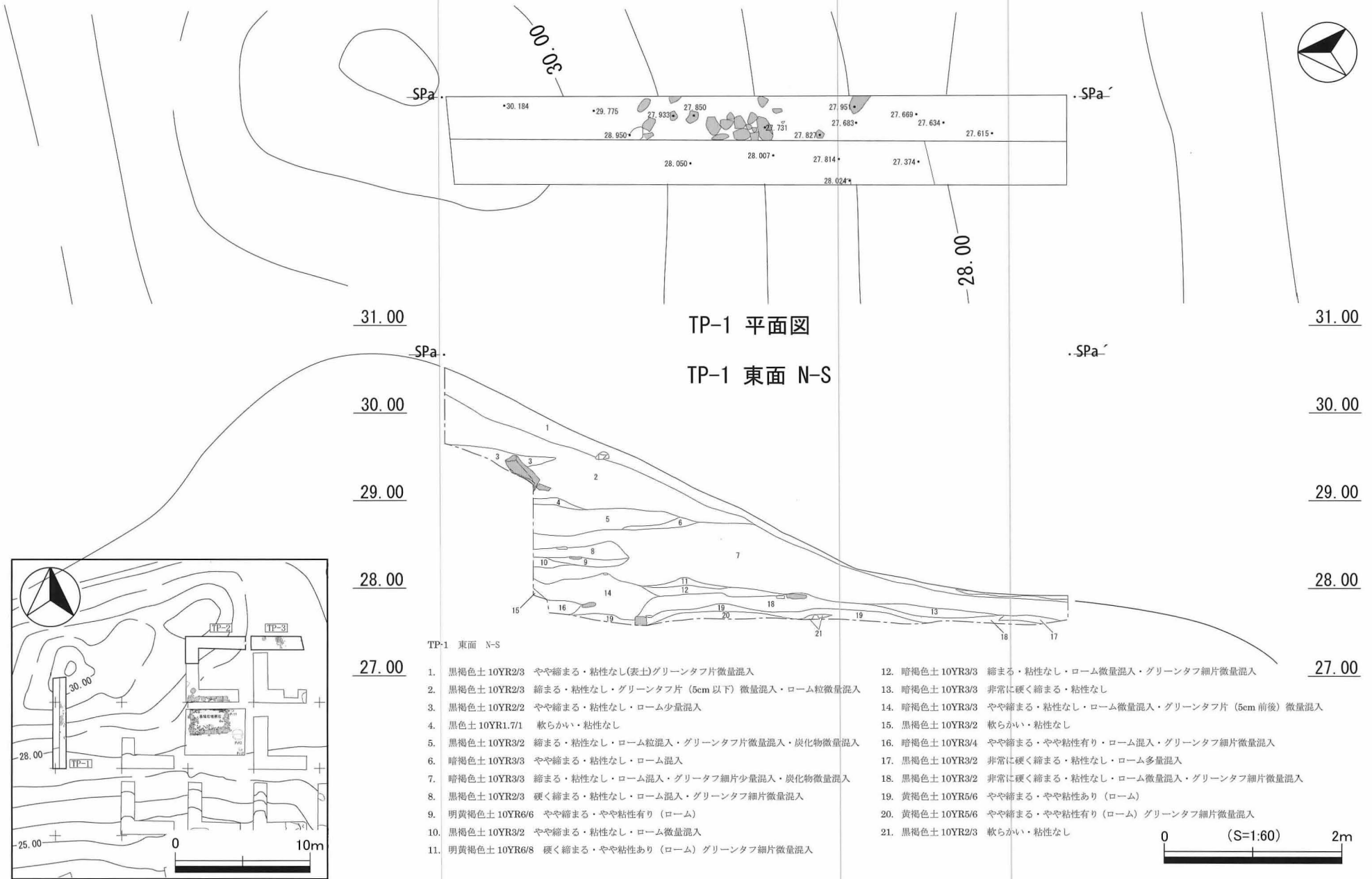
TP-2は東側の土塁上に、TP-3はそれを東に延長する形で設定した。土層2)には近・現代のガラス片や磁器、タイルなどが含まれていることから、TP-1の土層1)同様、明治8年以降に公園化された際の造成あるいは、ツツジを植えた際の盛り土とみられる。土層3)以下は近代の遺物を含まず、グリーンタフ片が混入することから、明治8年築城以前の堆積と考えられる。

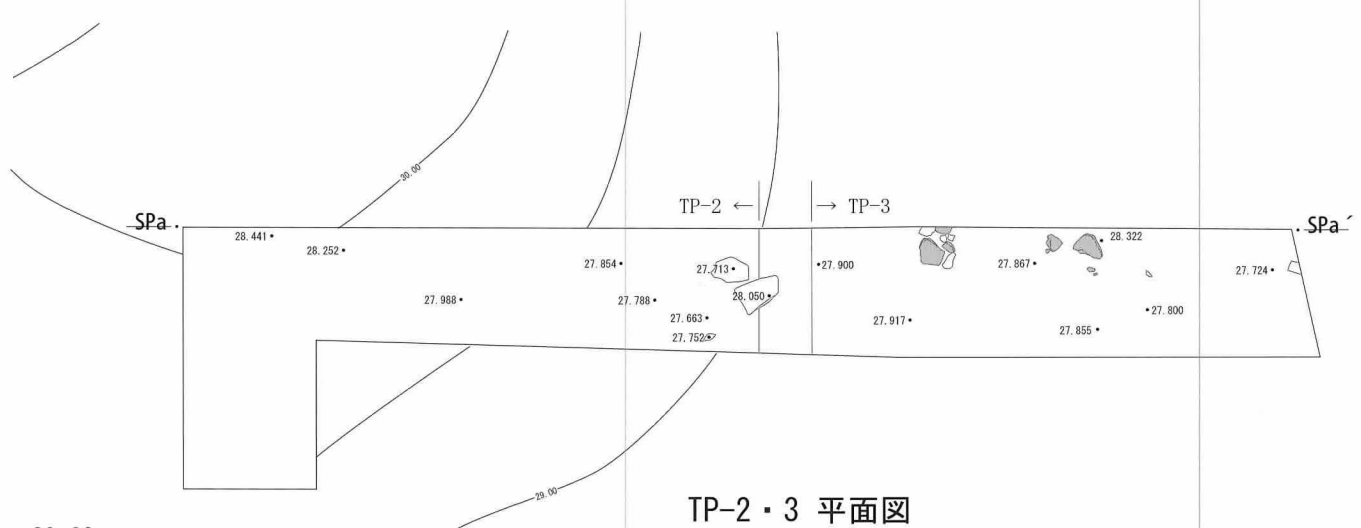
#### 第8図 堀廻り地区TP-4・5平面図・セクション図

##### ・TP-4

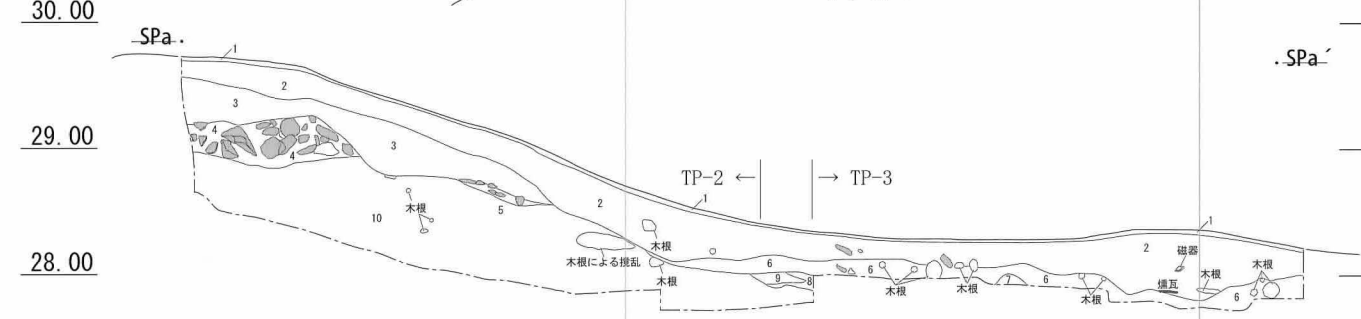


第5図 堀廻り地区滝口付近遺構配置図





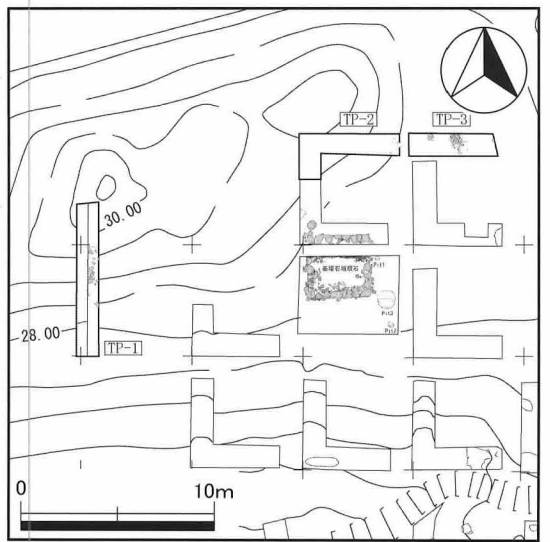
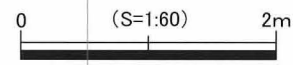
TP-2・3 平面図



TP-2・3 北面 W-E

TP-2 北面 W-E

1. 黒色土 10YR2/1 軟らかい・粘性なし・腐植土(表土)
2. 暗褐色土 10YR3/3 軟らかい・粘性なし・腐粘土・グリーンタフ片微量混入
3. 黒褐色土 10YR2/3 軟らかい・粘性なし・ローム粒少量混入
4. 黒褐色土 10YR2/3 軟らかい・粘性なしグリーンタフ片(5~8 cm)及び30 cm前後の不定形礫よりなるグリーンタフ片(10cm前後)より成る
5. 暗褐色土 10YR3/3 グリーンタフ片(10cm前後)より成る
6. 暗褐色土 10YR3/4 やや締まる・粘性なし・ローム微量混入・グリーンタフ片混入
7. 黒褐色土 10YR3/2 軟らかい・粘性なし・ローム微量混入
8. 黄褐色土 10YR5/6 硬く締まる・粘性なし・10YR3/4暗褐色土混入
9. 暗褐色土 10YR3/4 やや締まる・粘性なし・グリーンタフ片微量混入
10. 暗褐色土 10YR3/3 締まる・粘性なし・炭化物微量混入・グリーンタフ片微量混入



第7図 堀廻り地区TP-2・3平面図・セクション図



出土遺物から、土層 1)～4) は近・現代の盛り土とみられる。土層 5)～10) は近・現代の遺物を含まず、上面が硬く締まっていることから、幕末築城時～明治 8 年廃城の旧地表面と考えられる。トレンチ底面は嘉永 3 年築城以前の旧地表面とみられ、50 cm 前後のグリーンタフやハツリ層を検出している。

・ TP-5

土層 3)・4) 以下は嘉永 3 年築城時の堆積土とみられ、不定形の礫やグリーンタフのハツリ層が多量に含まれる。土層 8) は本丸土居石垣の根堀り跡とみられる。

第 9 図 堀廻り地区 TP-6・7 平面図・セクション図

・ TP-6、TP-7

TP-6・7 は本丸土居上に設定した。TP-6 トレンチ底面にはグリーンタフ碎片の集中があることから、嘉永 3 年築城以前の旧地表面とみられる。TP-6 土層 2) は現代のガラス片が含まれることから最近時の堆積と考えられる。土層 4) は TP-7 土層 1) に相当し、TP-6 土層 8) は TP-7 土層 4) に相当する。TP-7 土層 1) には、近代の陶磁器やガラス片が含まれており、TP-6 土層 7) にもガラス片が含まれていることから、少なくとも TP-6 土層 1)～7)・TP-7 土層 1) は近代の公園化に伴う造成か、戦時下に本丸土居を掘開して行われた鉄道トンネル工事による掘り上げ土と考えられる。TP-7 土層 2)～6) は明治 8 年廃城以前の堆積土、土層 7)・8) にはグリーンタフ碎片が含まれないことから、この上面が嘉永 3 年築城以前の旧表土と考えられる。

第 10 図 堀廻り地区 TP-8～10 平面図、第 11 図 堀廻り地区 TP-8～10 セクション図

・ TP-8、TP-9、TP-10

本丸土居上において 4 m 四方の平面発掘に加え、西面・南面の L 字トレンチ調査を行った。

TP-8 土層 3) にはアルミ缶のプルタブが含まれていたことから、土層 1)～3) は近・現代の堆積土、トレンチ底面は明治 8 年廃城後の旧地表面と考えられる。

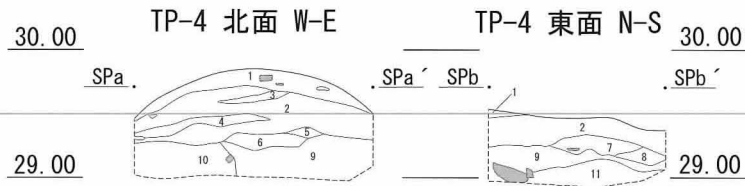
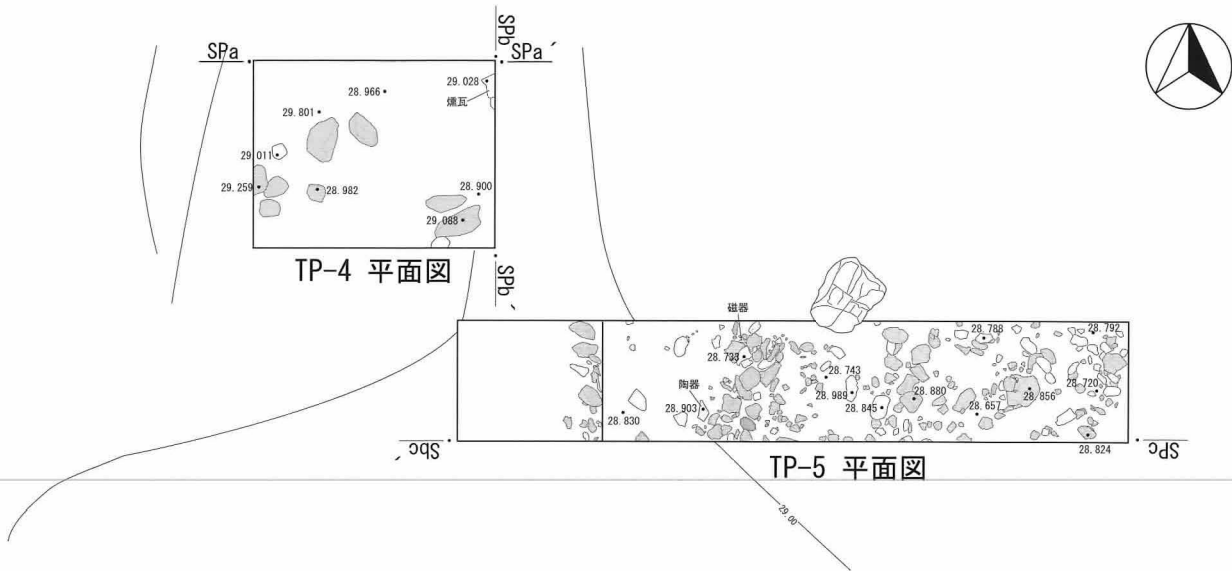
TP-9 西面 SPf-SPf' の観察から、土層 2)・4) 上面が非常に硬く締っており、明治 8 年廃城までの堆積土と考えられる。それより下層が嘉永 3 年築城以前の堆積土とみられる。

TP-10 南面 SPi-SPi の観察から、土層 1) は明治 8 年廃城以後の堆積土、土層 2)・4) はグリーンタフ片を含むことから廃城以前の堆積土とみられる。西面 SPj-SPj' においては、土層 8) が廃城以前の堆積土である。土層 5) は土層 8) 上面から掘り込まれているが、遺物が出土していないため詳細な時期は不明である。

(佐藤)

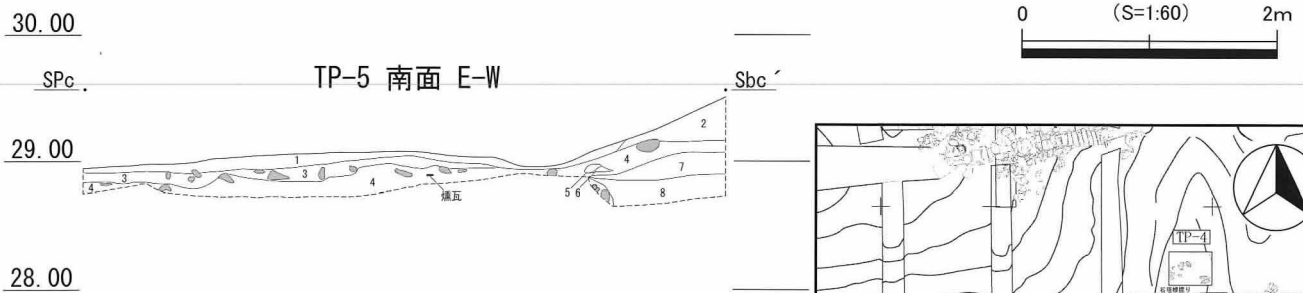
3. 出土遺物

表 2 出土遺物一覧表、表 3 堀廻り地区出土遺物観察表、第 12 図 堀廻り地区出土遺物  
堀廻り地区の出土遺物は総計 1,212 点で、縄文土器・石器・陶磁器・瓦・金属製



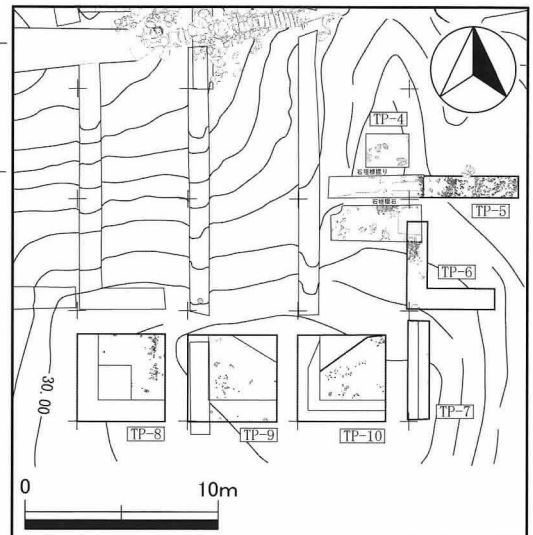
TP-4 北面 W-E 西面 S-N

1. 黒褐色土 10YR2/3 軟らかい・粘性なし・腐植土（表土）
2. 暗褐色土 10YR3/3 やや縮まる・粘性なし・褐色土 10YR6/8 ローム粒多量混入
3. 褐色土 10YR4/4 軟らかい・粘性なし・暗褐色土 10YR6/6 ローム粒多量混入
4. 黒褐色土 10YR3/2 やや縮まる・粘性なし・グリーンタフ細片微量混入
5. 暗褐色土 10YR3/3 非常に硬く縮まる・粘性なし・黄褐色土 10YR5/6 ローム粒多量混入
6. 黒褐色土 10YR2/3 硬く縮まる・粘性なし・明黄褐色土 10YR6/8 ローム少量混入・グリーンタフ細片微量混入
7. 黄褐色土 10YR5/8 硬く縮まる・粘性なし・ローム・グリーンタフ細片微量混入
8. 黒褐色土 10YR2/3 硬く縮まる・粘性なし・黄褐色土 10YR5/6 ローム少量混入
9. にぶい黄褐色土 10YR4/3 硬く縮まる・粘性なし・明黄褐色土 10YR6/8 ローム粒少量混入
10. 暗褐色土 10YR3/4 硬く縮まる・粘性なし
11. 黄褐色土 10YR5/6 縮まる・粘性なし・ローム・暗褐色土 10YR3/3 多量混入

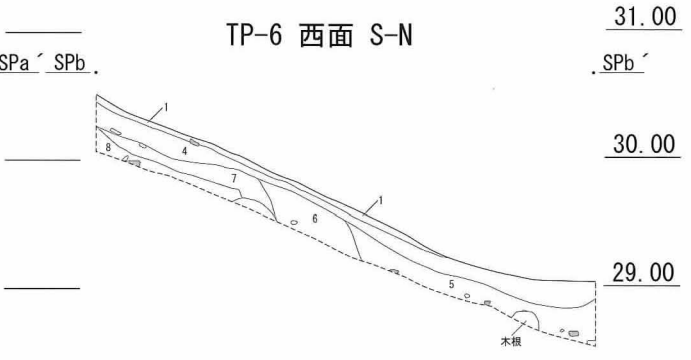
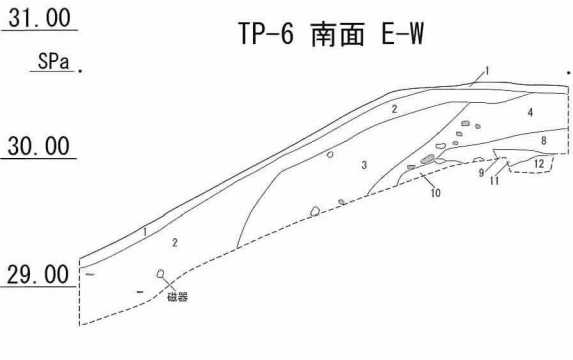
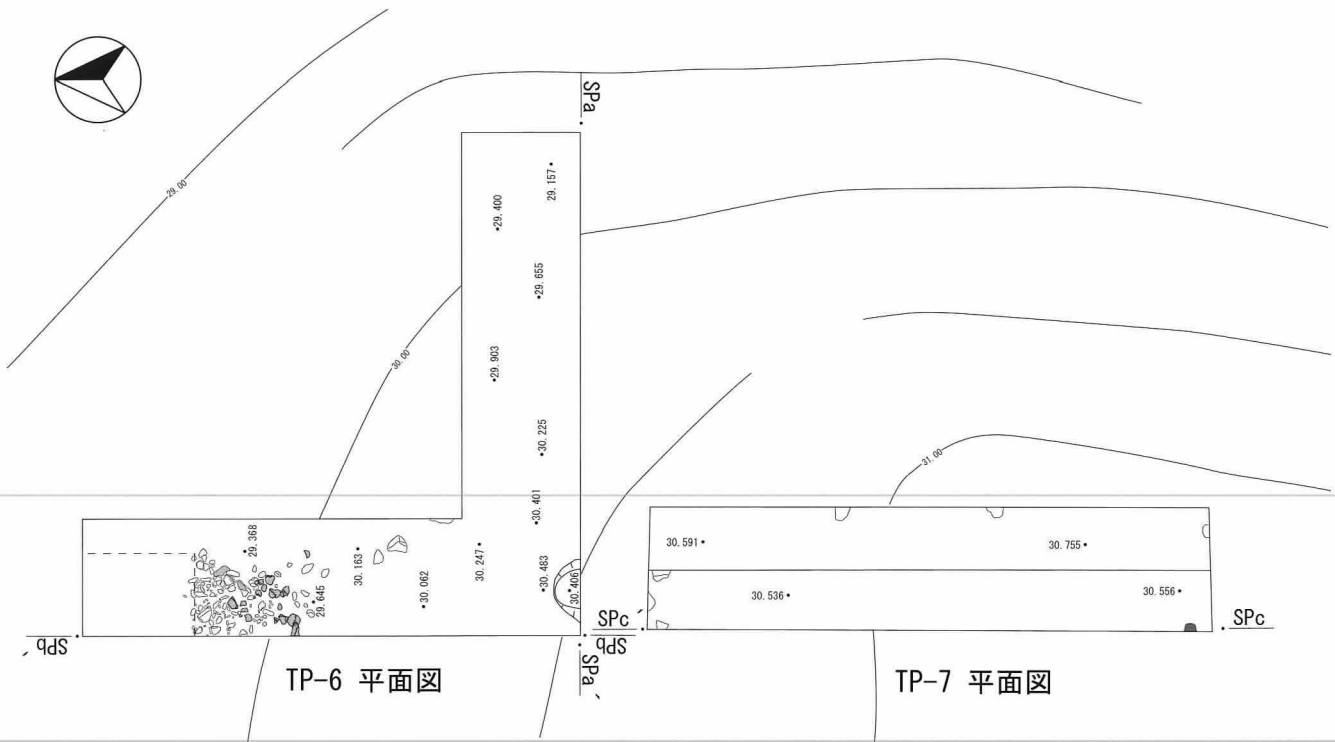


TP-5 南面 E-W

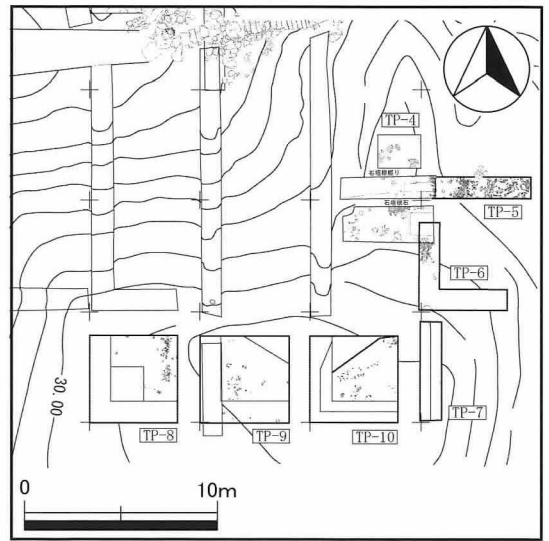
1. 黒褐色土 10YR2/3 縮まる・粘性なし・腐植土（表土）・ローム粒微量混入
2. 黒褐色土 10YR2/3 縮まる・粘性なし・腐植土（表土）・ローム粒微量混入
3. 黒褐色土 10YR2/3 硬く縮まる・粘性なし・ローム粒微量混入
4. 暗褐色土 10YR3/3 縮まる・やや粘性有り・グリーンタフ細片混入
5. 黒色土 10YR1.7/1 硬く縮まる・粘性なし
6. 黄褐色土 10YR5/6 縮まる・粘性なし・ローム・暗褐色土 10YR3/3 を多量に含む
7. 黒褐色土 10YR2/3 硬く縮まる・粘性なし・ロームを少量含む
8. 黒褐色土 10YR2/3 縮まる・粘性なし・ロームを少量含む



第8図 堀廻り地区 TP-4・5 平面図・セクション図



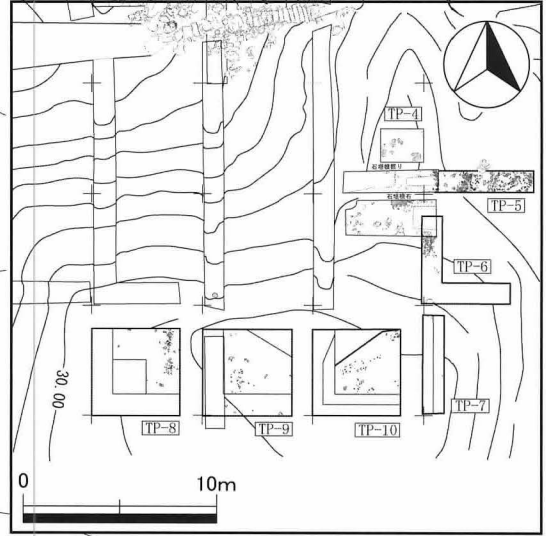
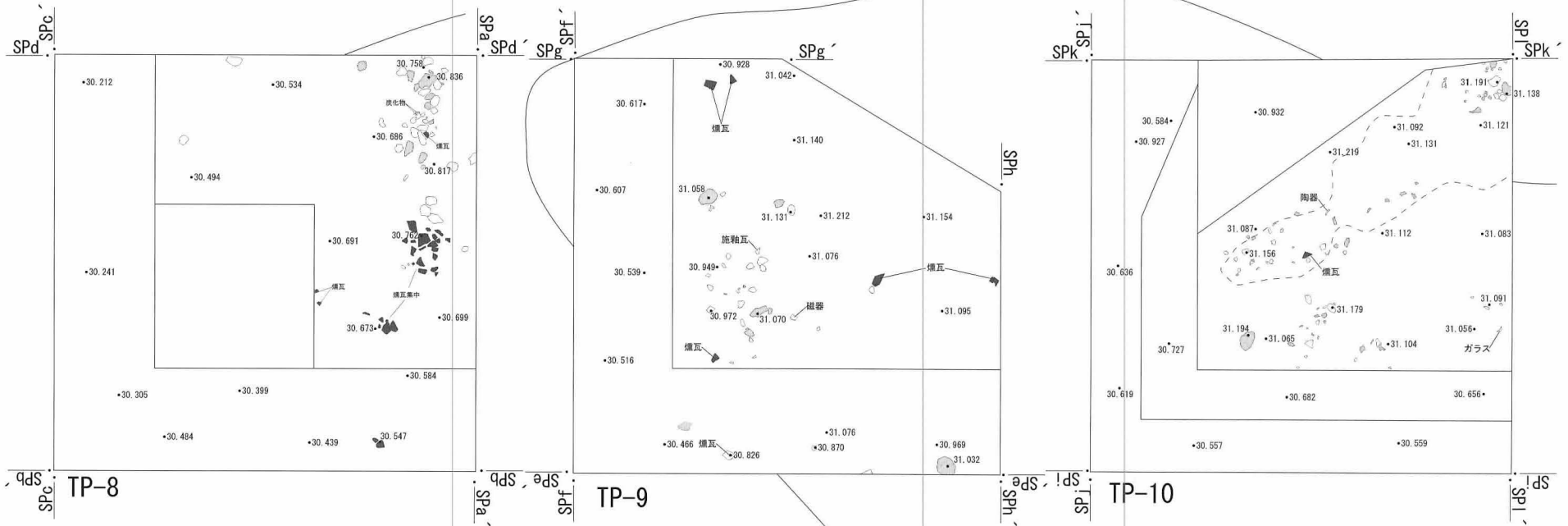
- TP 6 南面 E-W 西面 S-N
- |  |                                   |
|--|-----------------------------------|
| 1. 黒褐色土 10YR2/3 軟らかい・粘性なし                        | 7. 黒褐色土 10YR3/2 硬く締まる・粘性なし        |
| 2. 暗褐色土 10YR3/3 やや締まる・粘性なし・ローム多量混入・グリーンタフ細粒極微量混入 | 8. 暗褐色土 10YR3/3 やや軟らかい・粘性なし       |
| 3. 黒褐色土 10YR3/2 やや締まる・粘性なし・ローム少量混入・グリーンタフ細片微量混入  | 9. 黒色土 10YR1.7/1 軟らかい・粘性なし        |
| 4. 黒褐色土 10YR3/2 やや締まる・粘性なし・ローム少量混入・グリーンタフ細片微量混入  | 10. 黄褐色土 10YR5/8 やや締まる・やや粘性有り・ローム |
| 5. 黒褐色土 10YR3/2 締まる・粘性なし                         | 11. 黄褐色土 10YR5/8 硬く締まる・ローム        |
| 6. 黒褐色土 10YR3/2 締まる・粘性なし・ローム微量混入                 | 12. 暗褐色土 10YR3/4 やや軟らかい・粘性なし      |
- (S=1:60) 0 2m



第9図 堀廻り地区 TP-6・7 平面図・セクション図



30.00



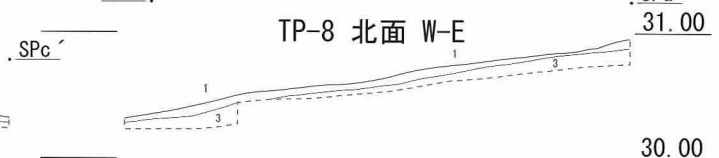
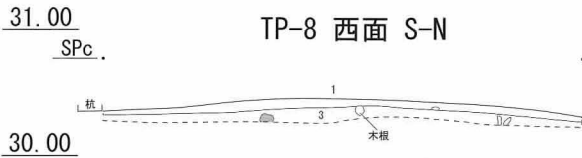
0 (S=1:60) 2m

第10図 堀廻り地区TP-8~10平面図

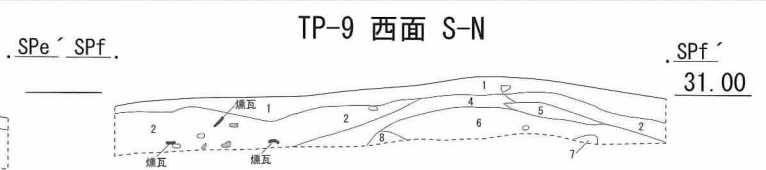


TP-8 東面 南面 西面 北面

1. 暗褐色土 10YR3/3 硬く締まる・粘性なし・表土
2. 炭化物層
3. 暗褐色土 10YR3/4 非常に硬く締まる・粘性なし・グリーンタフ細片微量混入・ガラス・ブルタブ混入



TP-9 南面 E-W

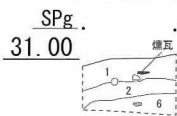


30.00

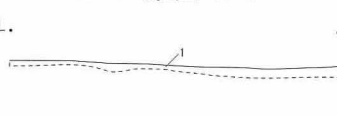
30.00

TP-9 南面 西面 北面 東面

TP-9 北面 W-E



TP-9 東面 N-S



30.00

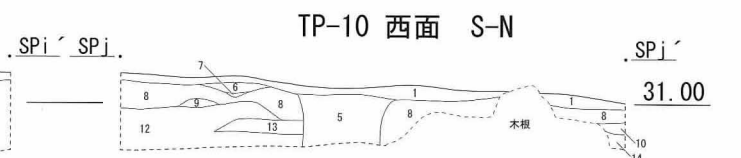
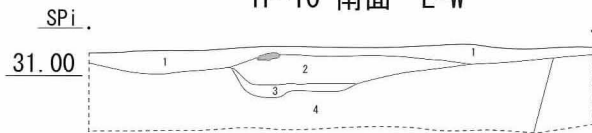
30.00

1. 暗褐色土 10YR3/3 硬く締まる・粘性なし・グリーンタフ細粒極微量混入
2. 暗褐色土 10YR3/3 非常に硬く締まる・明黄褐色土 10YR6/8 を少量含む・グリーンタフ細片・炭化物微量混入
3. 暗褐色土 10YR3/4 非常に硬く締まる・明黄褐色土 10YR6/8 を少量含む・グリーンタフ細片・炭化物微量混入
4. 暗褐色土 10YR3/4 非常に硬く締まる・グリーンタフ細粒極微量混入
5. 黒色土 10YR2/1 やや締まる・粘性なし・炭化物多量混入
6. 暗褐色土 10YR3/4 やや軟らかい・粘性なし・炭化物極微量混入
7. 明黄褐色土 10YR6/8 やや締まる・粘性なし
8. 明褐色土 7.5YR5/8 軟らかい・粘性なし・砂礫層・1cm 前後の円礫多量混入

32.00

32.00

TP-10 南面 E-W



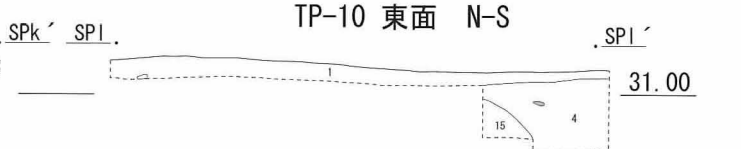
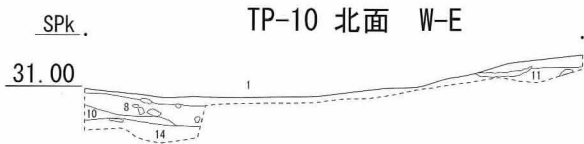
30.00

30.00

32.00

32.00

TP-10 北面 W-E

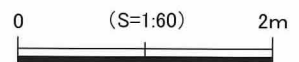


30.00

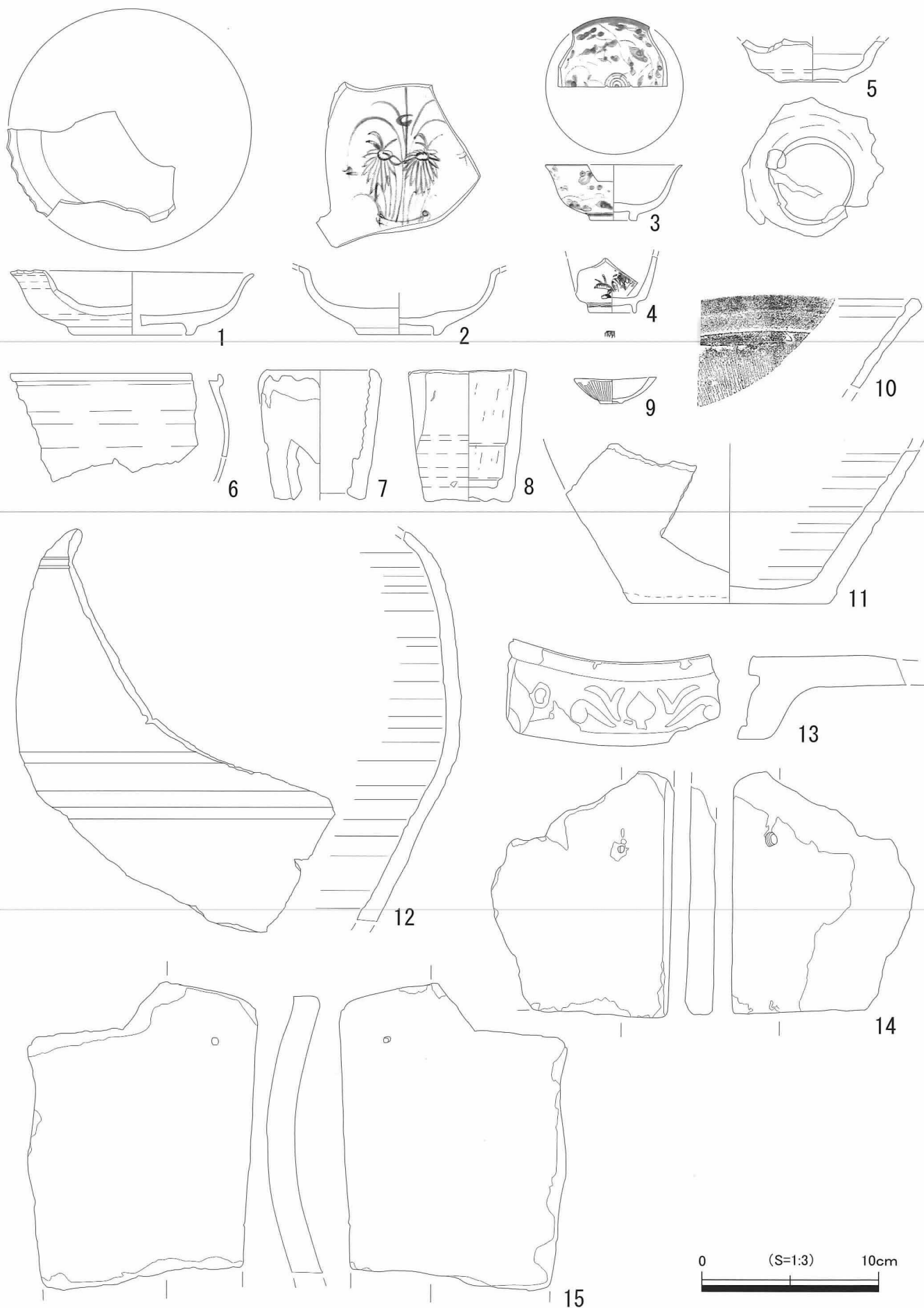
30.00

TP-10 南面 西面 北面 東面

1. 暗褐色土 10YR3/3 硬く締まる・粘性なし・表土
2. 明黄褐色土 10YR6/6 硬く締まる・粘性なし・ローム・にぶい黄褐色土 10YR4/3 を多量に含む・グリーンタフ細粒微量混入・煉瓦有り
3. 暗褐色土 10YR3/3 締まる・粘性なし
4. 暗褐色土 10YR3/3 やや締まる・粘性なし・炭化物微量混入・グリーンタフ細片微量混入
5. 鈍い黄褐色土 10YR4/3 硬く締まる・粘性なし・グリーンタフ細片極微量混入
6. 明黄褐色土 10YR6/8 締まる・粘性なし・暗褐色土 10YR3/3 を多量に含む
7. 褐色土 10YR4/4 締まる・粘性なし
8. 黄褐色土 10YR5/8 締まる・粘性なし
9. 暗褐色土 10YR3/3 硬く締まる・粘性なし・黄褐色土 10YR5/8 少量混入
10. 黒褐色土 10YR3/2 やや締まる・粘性なし・1cm 大の炭化物混入
11. 暗褐色土 10YR3/3 硬く締まる・粘性なし
12. 黒褐色土 10YR2/2 やや締まる・粘性なし・黄褐色土 10YR5/8 多量混入・グリーンタフ細粒微量混入
13. 鈍い黄褐色土 10YR5/4 締まる・粘性なし・明黄褐色土 10YR6/6 少量混入
14. 暗褐色土 10YR3/3 やや締まる・粘性なし・黄褐色土 10YR5/8 少量混入
15. 暗褐色土 10YR3/4 締まる・粘性なし・明黄褐色土 10YR6/8 少量混入・グリーンタフ細粒極微量混入



第 11 図 堀廻り地区 TP-8 ~ 10 セクション図



第12図 堀廻り地区出土遺物

品・ガラス製品のほか、近現代のタイルや銭貨などがみられた。以下、図示したものについて記す。

1) は白磁輪花皿である。くすんだ青みのある素地で、見込みには降灰がみられ、高台には砂が付着する。17世紀前半の肥前産とみられる。

2) は染付花盆文小皿である。口縁部が鐙縁状に屈曲し、見込みには染付による花盆文が描かれる。17世紀前半の肥前産とみられる。

3) は染付唐草文小坏である。染付により器の内外面に唐草を、見込み中央には渦を描く。19世紀中葉の瀬戸・美濃産であろう。

4) は染付草花文小坏である。人工呉須による染付が施され、高台内には銘がみられる。明治以降の瀬戸・美濃系磁器であろう。

5) は灰釉小皿である。見込みから外面体部にかけて灰釉が施され、見込みと高台にはそれぞれ3ヶ所の胎土目跡が確認できる。16世紀末葉～17世紀初頭の肥前産陶器とみられ、胴部が鐙縁状に屈曲することから溝縁口縁皿の可能性もある。

6) は産地不明の土鍋である。蓋を受ける部分の釉が拭き取られている。

7)・8) は焼塩壺である。いずれも18世紀代のものとみられるが、産地を示す刻印が胴部にみられず、蓋も共伴していない。

9) は肥前系磁器の紅皿である。19世紀代の所産とみられる。

10) は肥前産播鉢である。玉縁口縁となっており、口縁部のみに鉄釉が施される。

11)・12) は19世紀中葉の上野・高取系陶器中甕である。11)は底部を除く外面に鉄釉が施される。12)は外面に鉄釉が施され、肩部に2本、腰部に3本の沈線が廻る。

13) は軒瓦である。2次被熱により一部白色化している。14)・15) は鉄釉が施された棧瓦である。

(佐藤)

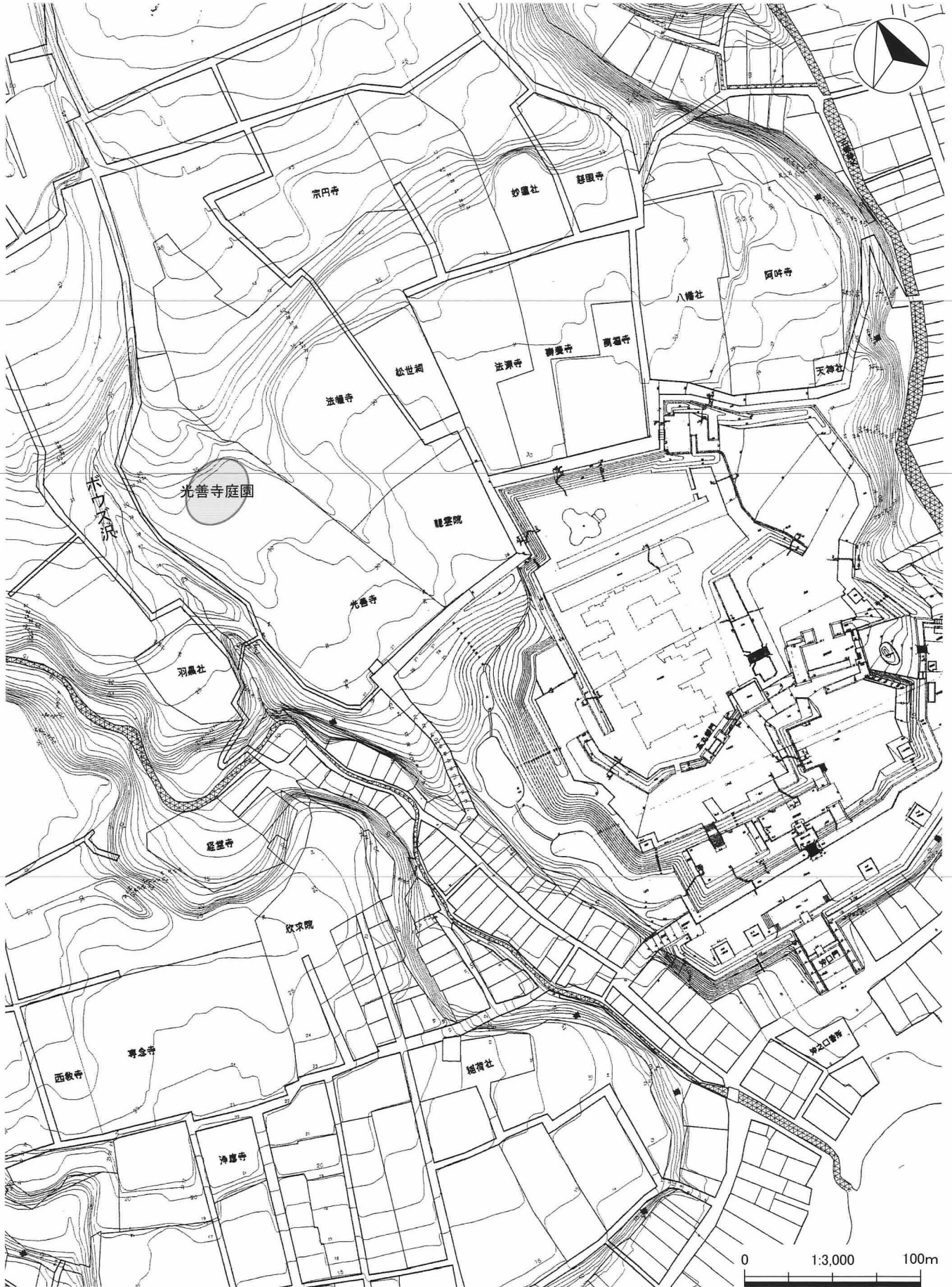
#### 4. まとめ

寺町地区との境界にある土塁の調査では、福山館期の旧地表面及び、築城時の土塁版築状況を確認した。ただし、廃城後、城郭内は公園化されて堀廻り地区一帯が庭園として改修されたことを踏まえると、造成を受けて現況の瘤が二つ並んだ形状の土塁となった可能性も考える必要がある。

本丸土居の調査では、主に築城時の旧地表面の検出に努めた。その結果、嘉永3年築城時・明治8年廃城時の旧地表面を確認するに至った。

過年度までの調査を踏まえると、本丸土居側の地形は、概ね旧地形を踏襲しており、調査区南側で戦時下に行われ鉄道トンネル工の影響はそれほどみられなかった。滝口石組は明治以降、公園化した際に構築された可能性が極めて高く、コンクリートによって補強されるなど、最近時まで改修されていたことが判明した。また、本丸土居石垣はほぼ抜き取られ、盛り土による整地がなされていたが、根掘りや根石を検出することができ、安政元年(1854)築城時に描かれた『福山城見分図』と位置関係が一致した。

(佐藤)



第 13 図 幕末～明治期地形地割復元図（光善寺周辺）



## Ⅲ 光善寺庭園の調査

### 1. 調査の経過

#### 第13図 幕末～明治期地割復元（光善寺周辺）、第14図 光善寺庭園調査位置図

光善寺庭園の遺構確認調査は、平成22年度から開始された。昨年度の調査で、庭池が岸から一様に急角度で掘り込まれた状況や、池の埋土が火災残滓を含む土砂とロームの版築から成ること、州浜や池岸の景石の多くが近代の埋土上に据えられていることが判明している。さらに、光善寺住職からの聞き取り調査を行ったところ、最近時まで州浜や景石の移動があったとの証言があった。

今年度の調査目的は、庭池の導水・排水路の有無、庭池及び東西出島の造成時期、滝口石組遺構の構築時期の精査である。

### 2. 出土遺構

#### 第15図 光善寺庭園TP-8・9平面図・セクション図

##### ・TP-8

庭園の南東にあるコンクリート側溝が、旧来の排水路を踏襲している可能性があるため、庭池の南東隅に排水遺構確認を目的とした2ヶ所のトレンチを設定した。

寺町一帯の旧地形は、山側から海側へ向かって緩やかに傾斜する段丘で、寺院を建立するにあたっては傾斜地を削平あるいは盛り土して平坦面を造成しており、光善寺境内及び庭園もそうした造成が行われたとみられる。TP-8 土層4)より近代の磁器片が出土していることから、土層2)～4)は明治36年以降の堆積土、土層6)以下がそれ以前の堆積と考えられる。西面SPc-SPc'及び北面SPd-SPd'にかかる掘り込みは、土層断面の観察から短期間に埋められたとみられるが、部分的な調査であることから性格は不明である。

##### ・TP-9

TP-9は、昨年度調査で礫の集中がみられたTP-1の南側にかかっており、サブトレンチにより庭池の地山まで掘り下げた。土層1)～4)は最近時の堆積土であり、土層2)には菓子袋が混入する。土層5)・8)上面が旧表土で、土層5)・6)が明治36年本堂火災後の埋土とみられ、土層6)には炭化物や被熱した瓦・礫といった火災残滓が含まれる。土層7)以下は明治36年以前の堆積土である。なお、過年度調査した際、庭池に共通する堆積状況として、火災残滓を含む埋土の上層にロームによる版築がみられたが、ここではそれを確認することはできなかった。

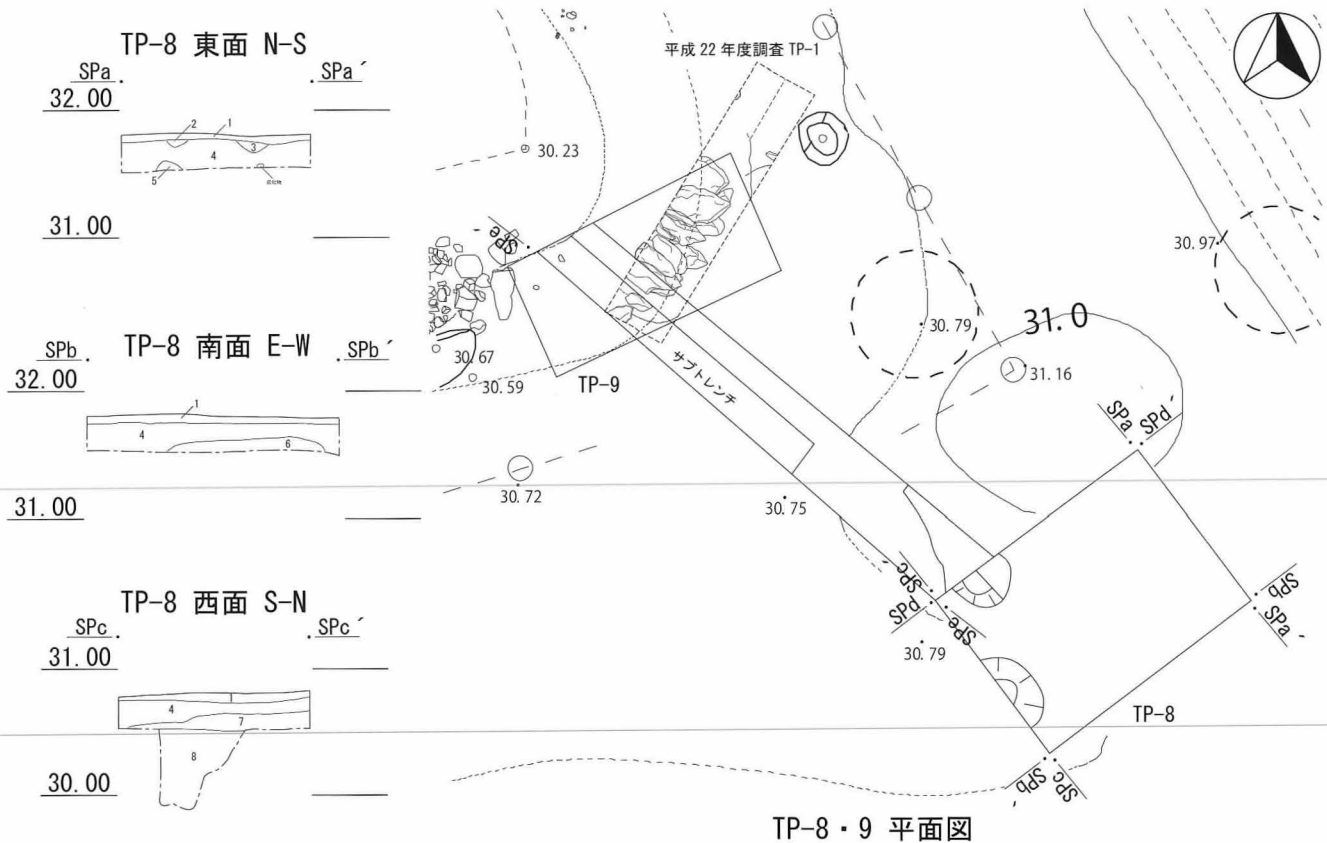
#### 第16図 光善寺庭園TP-10・11平面図・セクション図

##### ・TP-10

土層8)は明治36年本堂火災後による火災残滓を含む土砂である。よって土層2)～7)はそれ以後の堆積と判断される。土層9)は流れ込みによる堆積、土層10)はロームの版築、土層11)も被熱した燻瓦が含まれることから火災処理に伴う土砂とみられ、いずれも明治36年以前の堆積である。



第 14 図 光善寺庭園調査位置図

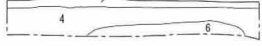


TP-8 東面 N-S  
SPa 32.00



31.00

TP-8 南面 E-W  
SPb 32.00



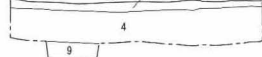
31.00

TP-8 西面 S-N  
SPc 31.00



30.00

TP-8 北面 W-E  
SPd 31.00



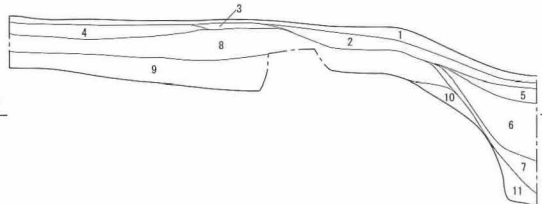
30.00

TP-8 東面 南面 西面 北面

1. 暗褐色土 10YR3/3 やや締まる・粘性なし (表土)
2. 暗褐色土 10YR3/4 やや締まる・粘性なし
3. 暗褐色土 10YR3/3 軟らかい・粘性なし
4. 暗褐色土 10YR3/3 やや締まる・粘性なし・ローム粒混入
5. 暗褐色土 10YR3/3 やや締まる・粘性なし・ローム粒混入
6. 黒褐色土 10YR2/3 締まる・粘性なし
7. 暗褐色土 10YR3/3 軟らかい・粘性なし
8. 黒褐色土 10YR2/3 やや締まる・粘性なし・ローム粒微量混入
9. 黒褐色土 10YR2/3 軟らかい・粘性なし
10. 暗褐色土 10YR3/3 やや締まる・粘性なし・ローム粒混入

0 (S=1:60) 2m

TP-9 西面 S-N  
SPe 31.00

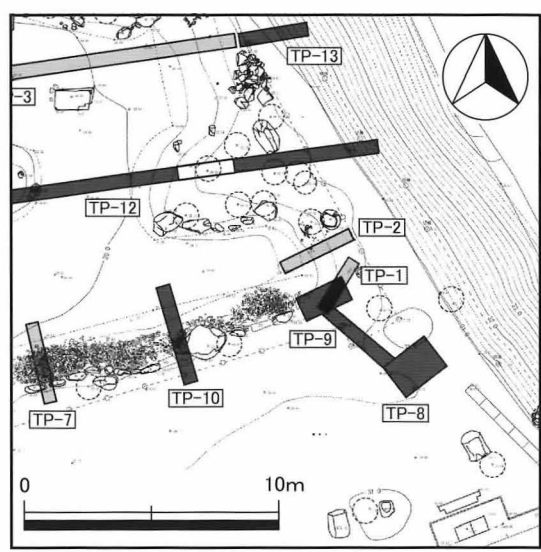


30.00

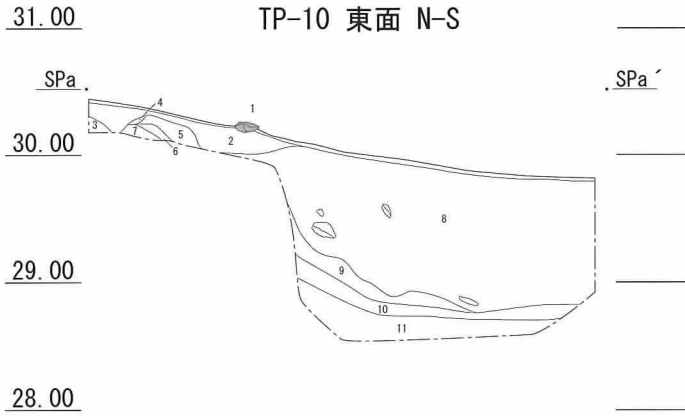
29.00

TP-9 西面 S-N

1. 暗褐色土 10YR3/3 硬く締まる・粘性なし
2. 暗褐色土 10YR3/4 締まる・粘性なし・ローム粒少量混入
3. 明黄褐色土 10YR6/6 締まる・粘性有り・10YR3/3 暗褐色土混入
4. 暗褐色土 10YR3/3 やや締まる・粘性なし・ローム粒少量混入
5. 褐色土 10YR4/4 やや締まる・粘性なし
6. 鈍い黄褐色土 10YR5/4 締まる・やや粘性有り・炭化物微量混入・被熱した礫多量混入
7. 暗褐色土 10YR3/3 やや締まる・粘性なし
8. 黒褐色土 10YR3/2 やや締まる・粘性なし・ローム粒少量混入
9. 暗褐色土 10YR3/3 やや締まる・粘性なし
10. 黄褐色土 10YR6/8 やや締まる・粘性有り・ローム
11. 黄褐色土 10YR5/8 やや締まる・粘性有り・10YR2/2 黒褐色土混入

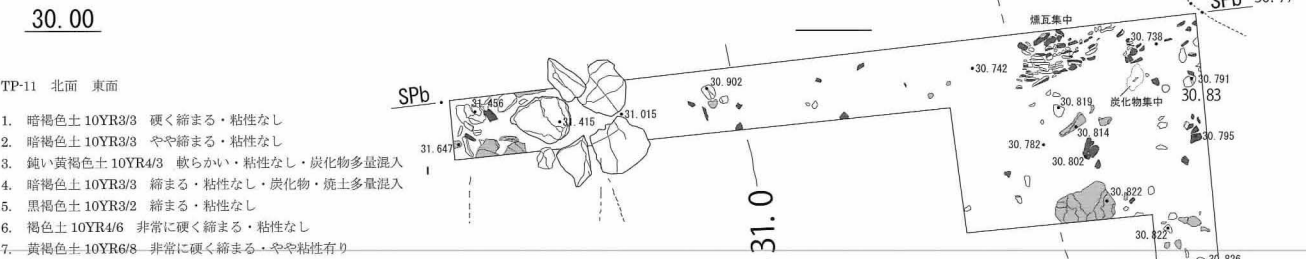


第15図 光善寺庭園 TP-8・9 平面図・セクション図



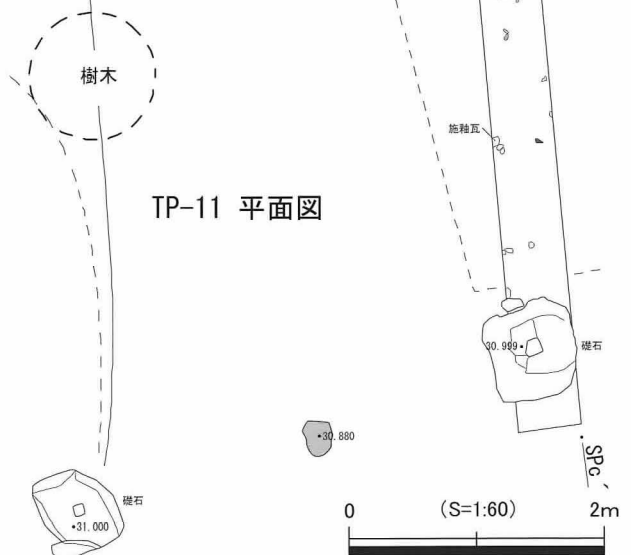
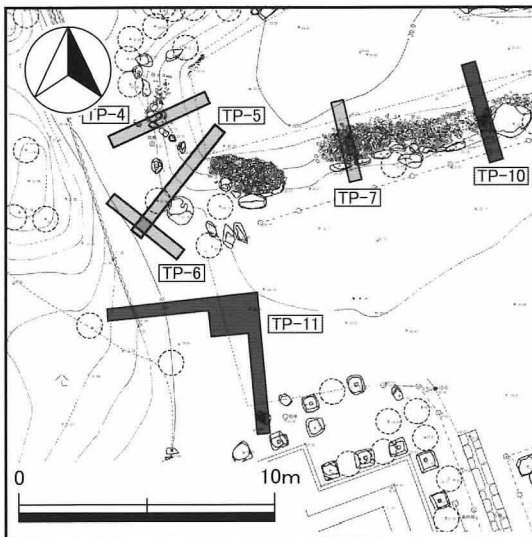
TP-10 東面 N-S

- |   |   |
|---|---|
| 1. 暗褐色土 10YR3/3 締まる・粘性なし (表土)                       | 7. 明黄褐色土 10YR6/8 やや締まる・やや粘性有り・ローム・黒褐色土 10YR3/2 混入           |
| 2. 暗褐色土 10YR3/3 締まる・粘性なし (表土)                       | 8. 黄褐色土 10YR5/8 締まる・やや粘性有り・ローム・被熱した凝灰岩片多量混入・グリーンタフ片混入・炭化物混入 |
| 3. 暗褐色土 10YR3/4 硬く締まる・やや粘性有り・ローム粒混入                 | 9. 黒褐色土 10YR2/2 やや締まる・粘性なし                                  |
| 4. 暗褐色土 10YR3/3 やや締まる・粘性なし                          | 10. 明黄褐色土 10YR6/6 締まる・粘性有り・ローム                              |
| 5. 鈍い黄褐色土 10YR5/4 硬く締まる・やや粘性有り・ロームブロック混入・被熱した凝灰岩片混入 | 11. 鈍い黄褐色土 10YR4/3 やや締まる・やや粘性有り・ロームブロック混入                   |
| 6. 暗褐色土 10YR3/3 やや締まる・粘性なし                          |   |



TP-11 北面 東面

- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1. 暗褐色土 10YR3/3 硬く締まる・粘性なし          |
| 2. 暗褐色土 10YR3/3 やや締まる・粘性なし          |
| 3. 鈍い黄褐色土 10YR4/3 軟らかい・粘性なし・炭化物多量混入 |
| 4. 暗褐色土 10YR3/3 締まる・粘性なし・炭化物・焼土多量混入 |
| 5. 黒褐色土 10YR3/2 締まる・粘性なし            |
| 6. 褐色土 10YR4/6 非常に硬く締まる・粘性なし        |
| 7. 黄褐色土 10YR6/8 非常に硬く締まる・やや粘性有り     |



第16図 光善寺庭園 TP-10・11 平面図・セクション図

なお、TP-10 にかかる拝石は、近代の堆積土である土層 2) を掘り込んで据えられており、光善寺住職への聞き取り調査の際、折戸浜（松前町館浜地区の海岸）から持ってきたとの証言と一致している。

#### ・ TP-11

TP-8・9 同様、排水遺構の有無を確認するため、庭池の南西隅にトレンチを設定し、西側・南側にトレンチを延長した。表土を除去したところ、燻瓦を地面に対して垂直に立てて並べた雨受けとみられる遺構や、礎石とみられるグリーンタフも検出した。さらに、炭化物の集中や幕末～明治初期にかけての陶磁器等を検出したことを踏まえると、明治 36 年に焼失した光善寺本堂に関する遺構の可能性が高く、トレンチ底面が当時の地表面であったと考えられる。

トレンチ西側には、土砂が土塁状に積まれており、庭石とみられる岩石が土留めとして転用されている。トレンチを延長して土層断面を観察したところ、土層 3)・4) に多量の炭化物や焼土が含まれており、被熱した燻瓦、施釉瓦、グリーンタフ片、明治期の仏花瓶などが出土した。よって明治 36 年本堂火災の残滓処理によって形成されたものと判断される。

### 第 17 図 光善寺庭園 TP-12 平面図、第 18 図 光善寺庭園 TP-12 セクション図

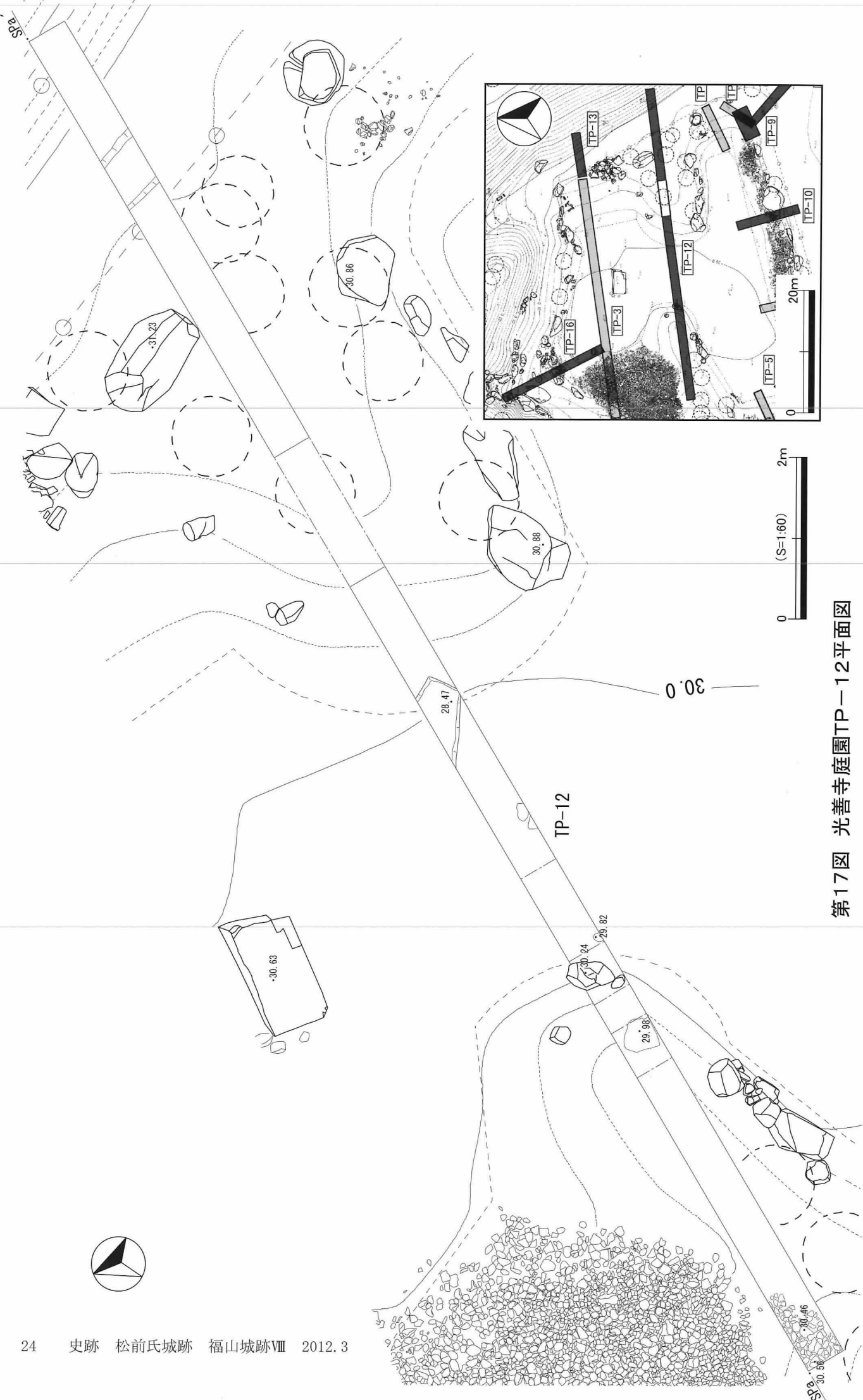
#### ・ TP-12

TP-12 は、庭池及び東西の出島にかかるトレンチである。土層断面の観察から、土層 11)・12)・13)・15)・18)・21)・22)・31)・36)・37)・38) の上面が明治 36 年以降の旧地表面とみられ、土層 10) には現代のガラス片が含まれていることから、土層 4)～10) は最近時の盛り土と考えられる。土層 11)～39) は明治 36 年本堂火災の火災残滓を含む埋土である。土層 40) はロームによる版築で、土層 40)・42)・43) が明治 36 年本堂火災以前の旧表土と考えられる。これより下層ではガラスが出土せず、19 世紀中葉の陶磁器や燻瓦、グリーンタフ碎片が含まれるため、幕末～明治初期までの堆積土と考えられる。土層 54) は流れ込みによる自然堆積である。なお、東側出島の突端近くで方形の掘り込みが検出され、埋土から 19 世紀中葉の磁器片や燻瓦が出土したことや、土層断面の観察から、土層 40) ロームによる版築が行われる直前に埋め戻されたものと考えられる。ただし、遺構の性格を明らかにするまでには至らなかった。

### 第 19 図 光善寺庭園 TP-13・14 平面図・セクション図

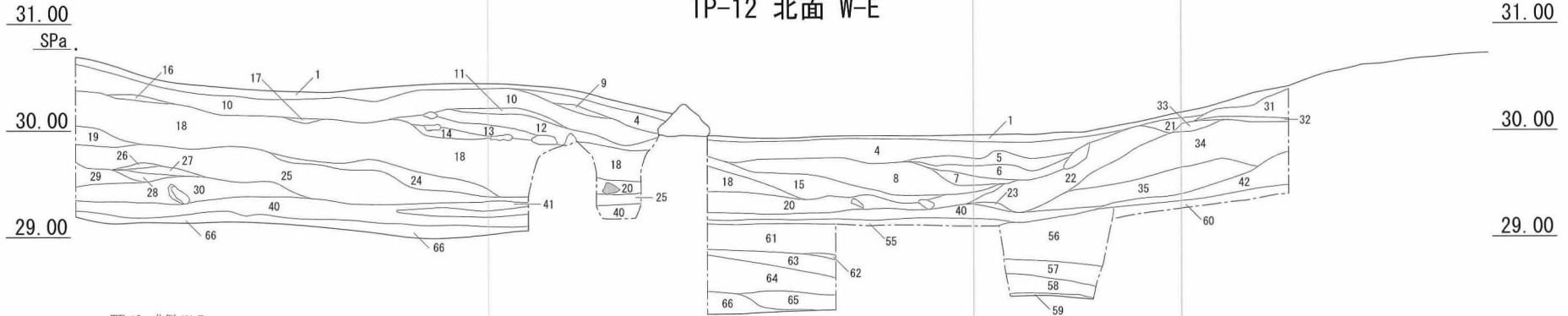
#### ・ TP-13

昨年度調査した TP-3 を東に延長した形となる。表土を除去したところで掘り込み面を検出した。しかし自然堆積は認められず、極めて短期間に掘り込まれ、埋め戻されたと考えられた。松前城資料館館長 久保泰氏のご教示によると、昭和 54 年当時、光善寺庭園の築山裏手にトンネルが発見され、その出口を調べるために庭園東側に南北方向の溝を掘ったことがあったが、何もなかったのですぐに埋め戻したという。これを裏付けるように、約 1.7 m まで掘り下げたところでコカ・コーラの



第17图 光善寺庭園TP-12平面图

TP-12 北面 W-E

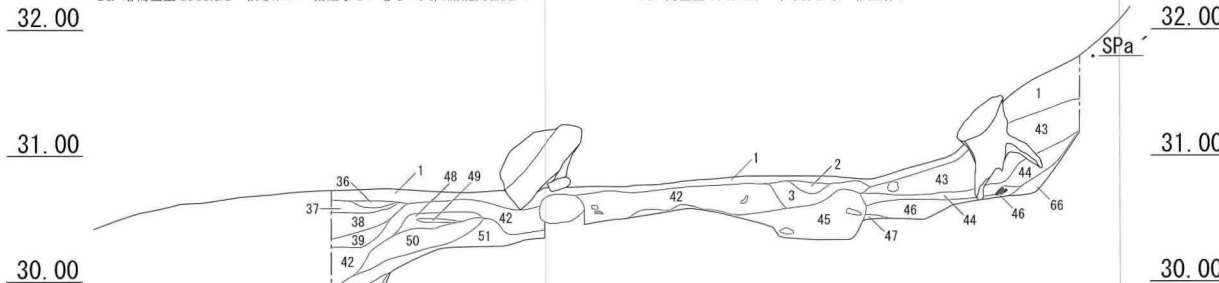
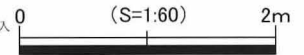


TP-12 北側 W-E

1. 黒褐色土 10YR2/2 やや軟らかい・粘性なし
2. 暗褐色土 10YR3/4 やや縮まる・やや粘性有り・ローム混入
3. 暗褐色土 10YR3/4 縮まる・やや粘性有り
4. 暗褐色土 10YR3/3 やや縮まる・粘性なし
5. 黒褐色土 10YR3/3 縮まる・粘性なし・ローム混入
6. 黒褐色土 10YR3/3 やや縮まる・粘性なし
7. 褐色土 10YR4/4 縮まる・粘性なし・ローム混入
8. 黒褐色土 10YR3/3 軟らかい・粘性なし
9. 黒褐色土 10YR3/2 軟らかい・粘性なし
10. 暗褐色土 10YR3/3 軟らかい・粘性なし・グリーンタフ混入・ガラス片混入
11. 暗褐色土 10YR3/3 軟らかい・やや粘性有り・ローム粒混入
12. 暗褐色土 10YR3/3 軟らかい・粘性なし・ローム混入
13. 暗褐色土 10YR3/4 軟らかい・粘性なし・もろい火山礫凝灰岩混入
14. 暗褐色土 10YR3/3 軟らかい・粘性なし・もろい火山礫凝灰岩混入

15. 褐色土 10YR4/4 やや縮まる・粘性有り・1~3cmの砂粒混入
16. 褐色土 10YR4/4 縮まる・やや粘性有り・ローム粒混入
17. 褐色土 10YR4/4 やや軟らかい・やや粘性有り・ローム
18. 黒褐色土 10YR3/2 縮まる・粘性なし・ローム粒混入・グリーンタフ片混入
19. 黒褐色土 10YR2/3 やや縮まる・粘性なし・ローム粒混入
20. 黒褐色土 10YR3/3 やや縮まる・粘性なし・グリーンタフ混入
21. 黒褐色土 10YR3/2 硬く縮まる・粘性なし
22. 褐色土 10YR4/4 軟らかい・粘性なし・もろい火山礫凝灰岩混入
23. 黄褐色土 10YR5/8 縮まる・粘性有り・ローム・もろい火山礫凝灰岩混入
24. 褐色土 10YR4/4 軟らかい・やや粘性有り・ローム
25. 暗褐色土 10YR3/3 やや軟らかい・粘性なし・ローム混入
26. 褐色土 10YR4/6 軟らかい・粘性有り・ローム
27. 暗褐色土 10YR3/3 やや縮まる・粘性なし
28. 褐色土 10YR4/6 やや縮まる・粘性有り・ローム

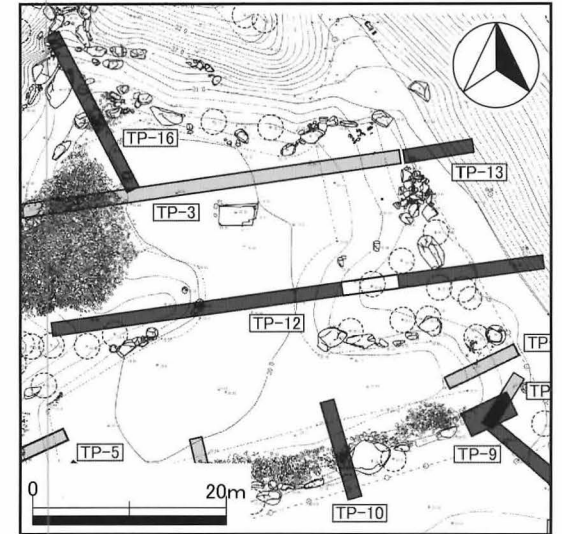
29. 暗褐色土 10YR3/3 軟らかい・粘性なし
30. 黒褐色土 10YR3/2 やや軟らかい・粘性なし・もろい火山礫凝灰岩混入・グリーンタフ片混入
31. 黄褐色土 10YR5/6 非常に硬く縮まる・粘性有り・ローム
32. 黒褐色土 10YR3/3 硬く縮まる・粘性なし・炭化物混入
33. 褐色土 10YR4/4 軟らかい・粘性なし・もろい火山礫凝灰岩混入
34. 褐色土 10YR4/4 縮まる・粘性なし・もろい火山礫凝灰岩混入
35. 褐色土 10YR4/3 やや縮まる・粘性なし・もろい火山礫凝灰岩混入
36. 黄褐色土 10YR4/3 縮まる・粘性なし
37. 暗褐色土 10YR3/3 硬く縮まる・粘性なし・ローム混入
38. 暗褐色土 10YR3/4 やや軟らかい・粘性なし
39. 暗褐色土 10YR3/3 軟らかい・粘性なし・ローム・焼土混入
40. 褐色土 10YR4/3 非常に硬く縮まる・粘性有り・ローム



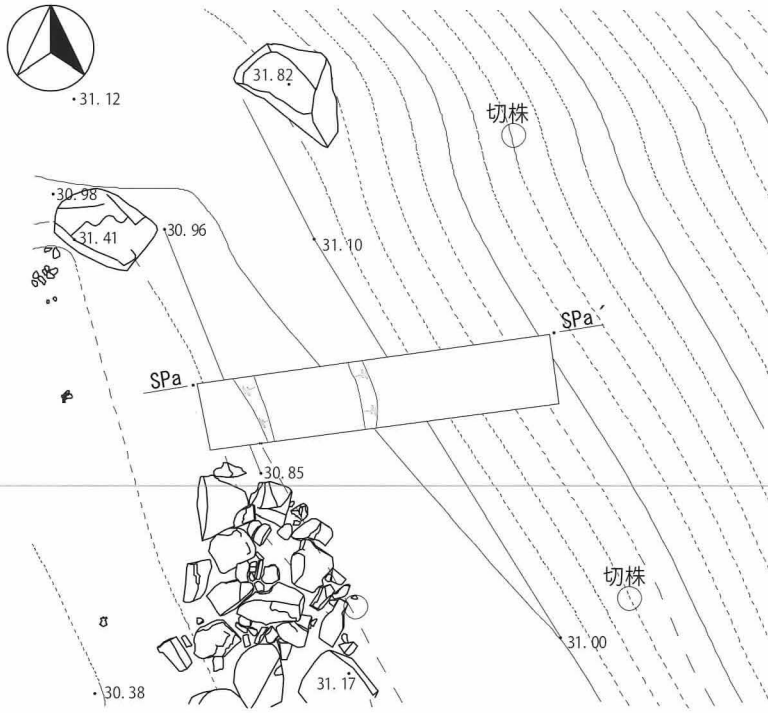
41. 黒褐色土 10YR3/2 軟らかい・粘性なし
42. 暗褐色土 10YR3/3 軟らかい・粘性なし
43. 黒褐色土 10YR2/2 やや軟らかい・粘性なし
44. 黒褐色土 10YR3/2 やや縮まる・粘性なし
45. 暗褐色土 10YR3/3 軟らかい・粘性なし・ロームブロック混入
46. 暗褐色土 10YR3/3 非常に硬く縮まる・粘性なし・ローム混入
47. 黒褐色土 10YR3/2 縮まる・粘性なし
48. 黄褐色土 10YR5/6 縮まる・粘性有り・ローム

49. 黒褐色土 10YR3/2 縮まる・粘性なし
50. 暗褐色土 10YR3/3 軟らかい・粘性なし・ローム混入
51. 黒褐色土 10YR6/8 やや軟らかい・粘性有り
52. 暗褐色土 10YR3/3 やや軟らかい・粘性なし・ローム混入
53. 暗褐色土 10YR3/3 やや縮まる・粘性なし・ローム混入
54. 黒褐色土 10YR6/8 やや軟らかい・粘性なし
55. 黄褐色土 10YR5/8 非常に硬く縮まる・粘性有り
56. 暗褐色土 10YR3/4 硬く縮まる・粘性やや有り・砂混入
57. 暗褐色土 10YR3/3 やや縮まる・粘性なし・ローム混入

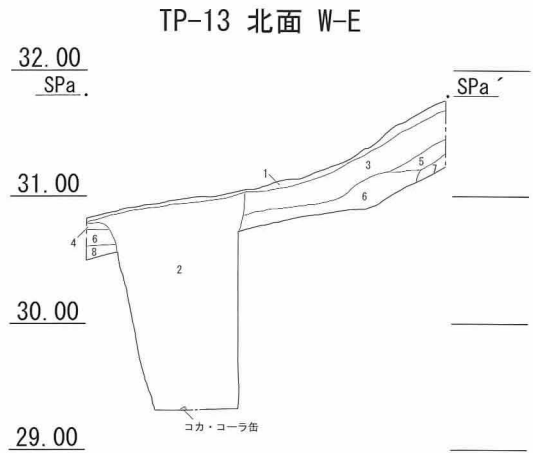
58. 褐色土 10YR4/4 軟らかい・粘性有り・ローム混入
59. 黒褐色土 10YR5/3 やや縮まる・粘性有り
60. 褐色土 10YR4/4 縮まる・やや粘性有り・グリーンタフ片混入
61. 褐色土 10YR4/4 硬く縮まる・粘性有り
62. 暗褐色土 10YR3/3 軟らかい・粘性なし・ローム粒混入
63. 暗褐色土 10YR3/3 硬く縮まる・粘性なし・ローム混入
64. 黒褐色土 10YR2/3 硬く縮まる・粘性なし・ロームを混入
65. 黄褐色土 10YR4/2 硬く縮まる・粘性有り・粘土質
66. 黄褐色土 10YR4/2 地山ローム



第18図 光善寺庭園TP-12セクション図

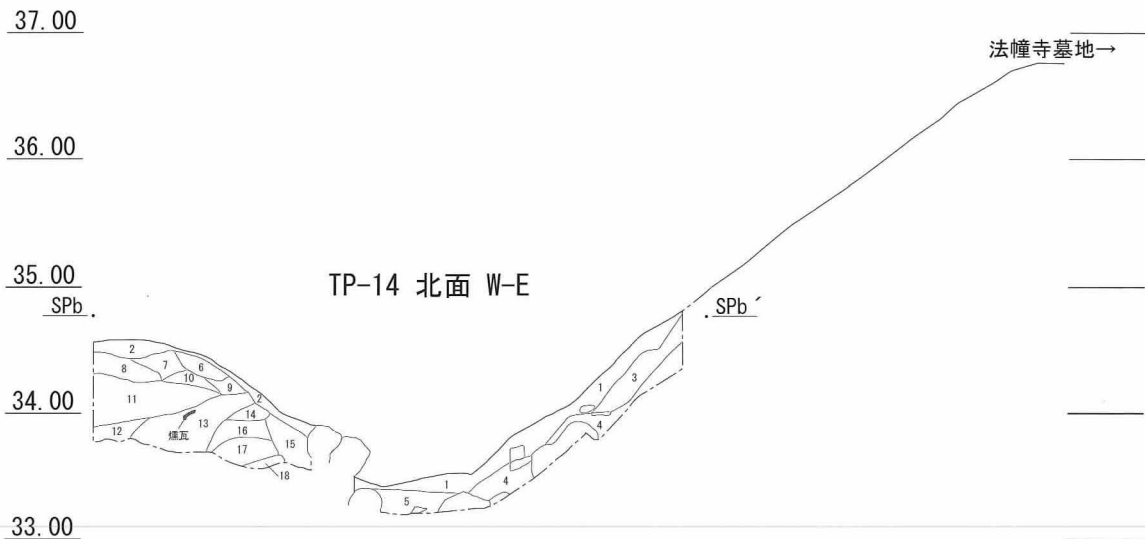


TP-13 平面図



TP-13 北面 W-E

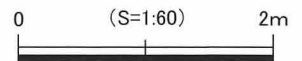
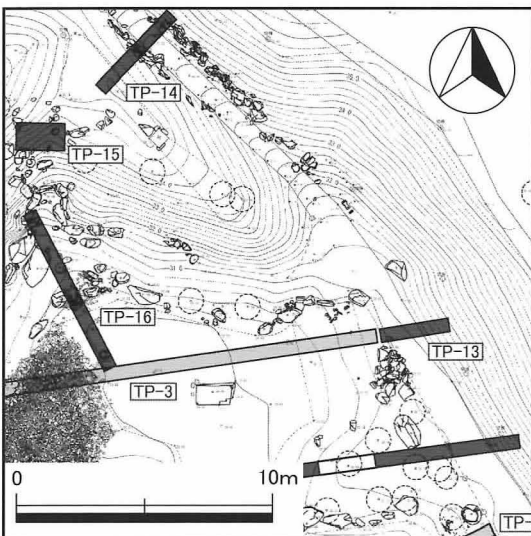
1. 暗褐色土 10YR3/3 軟らかい・粘性なし (表土)
2. 黒褐色土 10YR3/3 硬く締まる・やや粘性有り
3. 黒褐色土 10YR2/3 軟らかい・粘性なし
4. 暗褐色土 10YR3/4 硬く締まる・粘性なし
5. 黒褐色土 10YR3/2 軟らかい・粘性なし
6. 黒褐色土 10YR2/3 やや締まる・粘性なし
7. 暗褐色土 10YR3/4 やや締まる・粘性なし
8. 暗褐色土 10YR3/4 締まる・粘性なし



TP-14 北面 W-E

TP-14 北面 W-E

1. 暗褐色土 10YR3/3 やや締まる・粘性なし
2. 暗褐色土 10YR3/3 軟らかい・粘性なし
3. 黒褐色土 10YR2/3 やや締まる・粘性なし
4. 黒褐色土 10YR2/3 締まる・粘性なし・ローム微量混入
5. 黒褐色土 10YR3/3 硬く締まる・粘性なし
6. 褐色土 10YR4/6 やや締まる・粘性なし
7. 黄褐色土 10YR5/6 やや締まる・やや粘性有り・黒褐色土多量混入
8. 黒褐色土 10YR2/3 軟らかい・粘性なし
9. 黒褐色土 10YR3/2 軟らかい・粘性なし
10. 黒褐色土 10YR3/2 やや締まる・粘性なし・ローム微量混入
11. 黒褐色土 10YR2/3 やや締まる・粘性なし
12. 暗褐色土 10YR3/3 締まる・粘性なし・ローム少量混入
13. 暗褐色土 10YR3/3 軟らかい・粘性なし
14. 暗褐色土 10YR3/4 締まる・やや粘性有り
15. 暗褐色土 10YR3/3 軟らかい・粘性なし
16. 黒褐色土 10YR3/2 締まる・粘性なし
17. 黒褐色土 10YR2/2 やや締まる・粘性なし
18. 黒褐色土 10YR3/2 やや締まる・粘性なし



第19図 光善寺庭園 TP-13・14 平面図・セクション図



アルミ缶が出土したため、この掘り込みは庭園と何ら関係の無いものであると判断された。

・ TP-14

築山と法幢寺側土塁との間に通路がみられ、通路の両側は景石風の石で簡易な土留めがなされている。これを登ると3段の平坦面が続き、最上段の平坦面は光善寺歴代住職墓地となっている。

トレンチは通路に直交する形で設定した。土層1)は土塁上からの崩落土である。土層3)・4)は土留め石を据えた際の地表面とみられ、上面がやや縮まっている。土層5)は旧路盤面である。通路を挿んで西側、土層6)～14)は築山を構築するための盛り土で、土層12)には被熱した燻瓦が含まれる。土層9)～14)は、通路を造成する際に掘削を受けたとみられ、土層15)は土留め石を据えた際の埋土であろう。土層16)～18)は通路が造成される以前の自然堆積である。

第20図 光善寺庭園TP-15・16平面図・セクション図

・ TP-15

TP-15は滝口石組遺構の上部、滝の落口にあたる傾斜地に設定した。日本庭園研究会(以下、研究会と記す)が滝口上部を調査・整備した際は、「この附近は多いところで四〇cm、平均して三〇cmほども土に埋っていた」(『庭研』209号 日本庭園研究会1981)という。土層1)～3)を除去したところ、10cm前後の礫を敷き詰めた州浜と、長さ約80cm、幅約30cmの平らな凝灰岩を検出した。昭和56年に研究会が調査・整備を行った際の写真やスケッチと比較すると、平らな凝灰岩を確認することができ、周囲の景石にも移動・脱落はみられない。よって、土層1)～3)は最近時の堆積土ということになる。

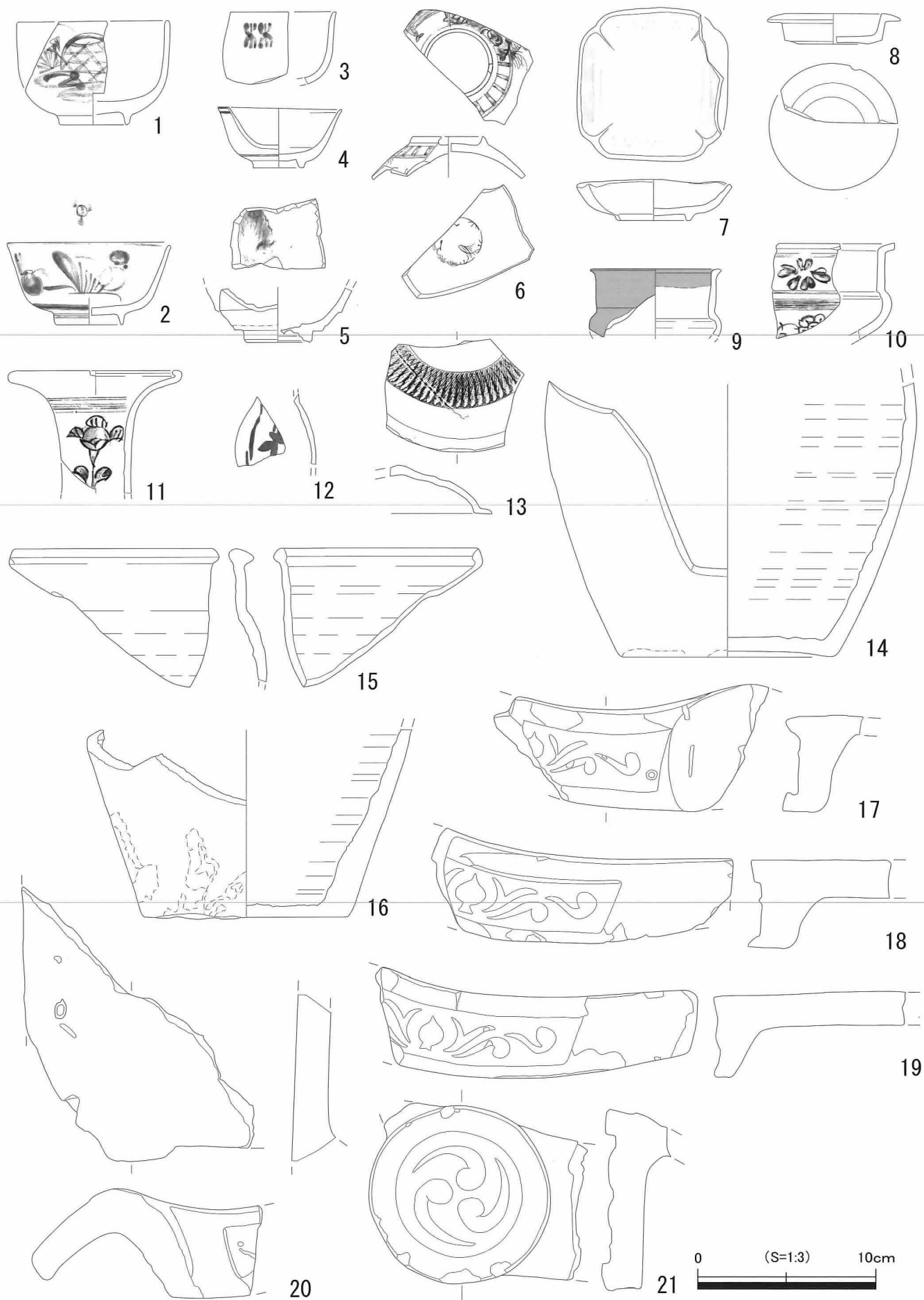
・ TP-16

TP-16は滝口石組遺構の下部に設定した。土層1)は、昭和56年に研究会の調査・整備が行われて以降の崩落土である。土層2)は州浜である。形の整った20cm弱の円礫を主体とし、昭和56年には研究会が円礫の補充をしている。また、滝口に二つ並ぶ立石や、平坦な水落石なども土層2)上に据わっている。土層3)～10)は被熱した燻瓦や幕末～明治初期の陶磁器、ガラス、炭化物を含むことから、明治36年本堂火災の火災残滓を含む埋土とみられる。土層11)はロームによる版築で、上面が硬く縮まっている。土層12)～17)は明治36年以前の堆積土とみられ、土層12)・13)にはグリーンタフ片が混入し、幕末～明治前期にかけて生産された越後産焼酎徳利が出土している。地山直上に堆積する土層18)は流れ込みによるものである。

第21図 光善寺庭園TP-17・18セクション図

・ TP-17

TP-17は、築山やや西寄りにみられる溝に直交する形で設定した。土層3)～



第22図 光善寺庭園出土遺物(1)

11) は築庭時の盛り土とみられ、土層 10) には 1840 年代～60 年代に生産された肥前産磁器が、土層 11) にはグリーンタフ片が含まれる。それより下層は築山構築以前の堆積土とみられ、縄文土器や石器が含まれる。土層 1)・2) は 3)～6)・8)・10)・11) 19)・26)・35)・36) を切っており、土層 2 からプラスチック製品が出土したため、この溝は最近時の掘削と考えられる。

#### ・ TP-18

築山裏手には平坦面がみられ、東側の土塁を挿んで光善寺墓地に隣接する。トレンチは土塁上から平坦面にかけて設定した。土層 2)～7) は近世の盛り土とみられ、土層 3) には 18 世紀末葉～19 世紀前半の肥前産磁器が含まれる。土層 8)～10) 上面が旧表土とみられ、土層 9) はロームの版築であることから、平場に何らかの建物があった可能性を示唆している。

(佐藤)

### 3. 出土遺物

表 2 出土遺物一覧表、表 4 光善寺庭園出土遺物観察表、第 2 2 図 光善寺庭園出土遺物 (1)、第 2 3 図 光善寺庭園出土遺物 (2)、第 2 4 図 光善寺庭園出土遺物 (3)

光善寺庭園の出土遺物は総計 2,676 点で、縄文土器・石器・陶磁器・瓦・金属製品・ガラス製品、古銭がある。以下、図示したものについて記す。

1) は鶉飼い風景を描いたとみられる染付小坏である。18 世紀末葉～19 世紀前葉の肥前産とみられる。

2)・3)・4) は瀬戸・美濃系磁器の染付小坏である。2) は外面に草文、見込みに不明文様が描かれ、口錆が施される。3) は外面に源氏香文が描かれる。4) は外面口縁下と腰部、高台脇に染付による圏線が廻る。いずれも 19 世紀中葉とみられる。

5) は産地不明陶器の小坏である。内面から外面腰部にかけて厚く藁白釉が施され、内面にわずかに鉄釉が流し掛けられる。高台は精緻に削り出され、底部は渦状になっている。

6) は染付碗の蓋である。外面には橋の欄干とみられるものが、内面は簡略な松竹梅文が描かれる。19 世紀前半の肥前産とみられる。

7) は白磁小皿である。型打ちにより見込み中央には龍文が、見込み四方には猪目文と雷文を組み合わせた文様帯が施される。19 世紀中葉の瀬戸・美濃系とみられる。

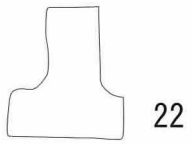
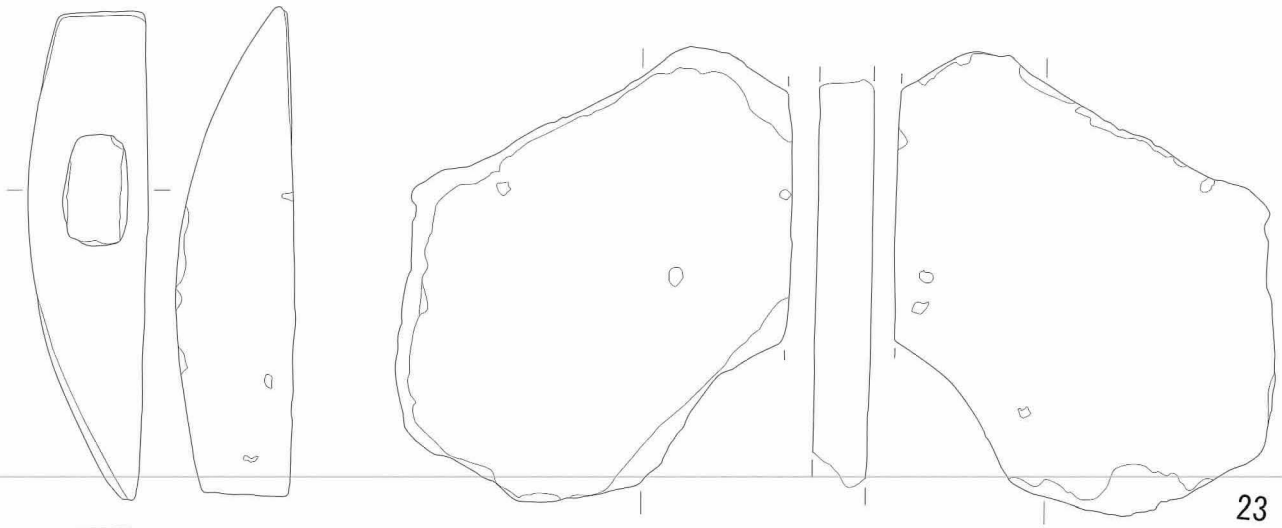
8) は水注あるいは油注の蓋である。内面には鉄釉が施され、外面は無釉となる。

9)・10) は香炉である。9) は外面から内面頸部にかけて青磁釉が施される。産地不明。10) は肥前系磁器とみられ、染付により桜花文が描かれる。いずれも 19 世紀代の所産とみられる。

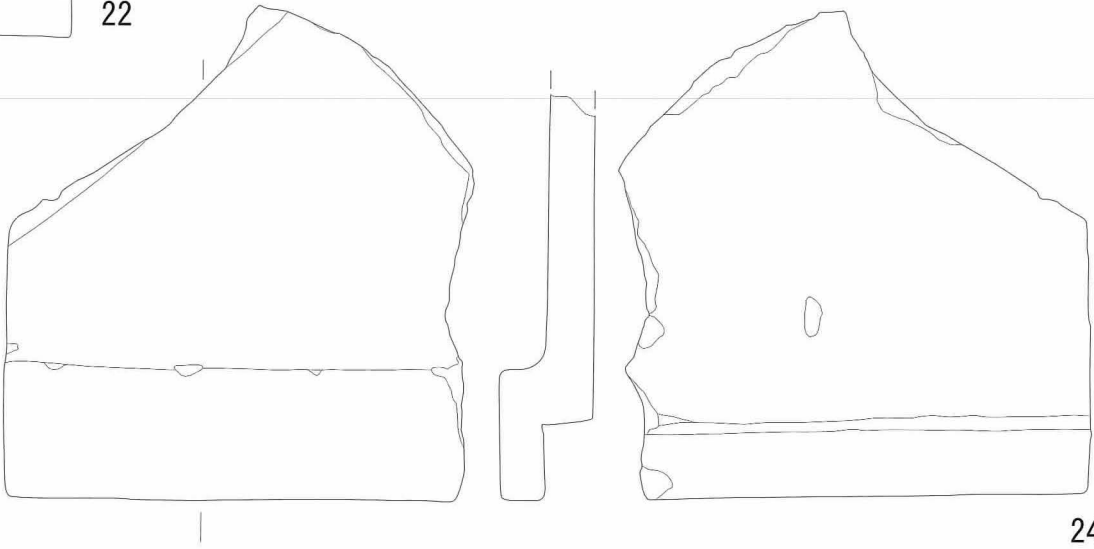
11) は産地不明の仏花瓶である。人工具須を用いた染付により、頸部に花卉文が描かれる。明治以降の製品である。

12) は小型の徳利である。外面に染付による文様が描かれる。19 世紀代の肥前系とみられる。

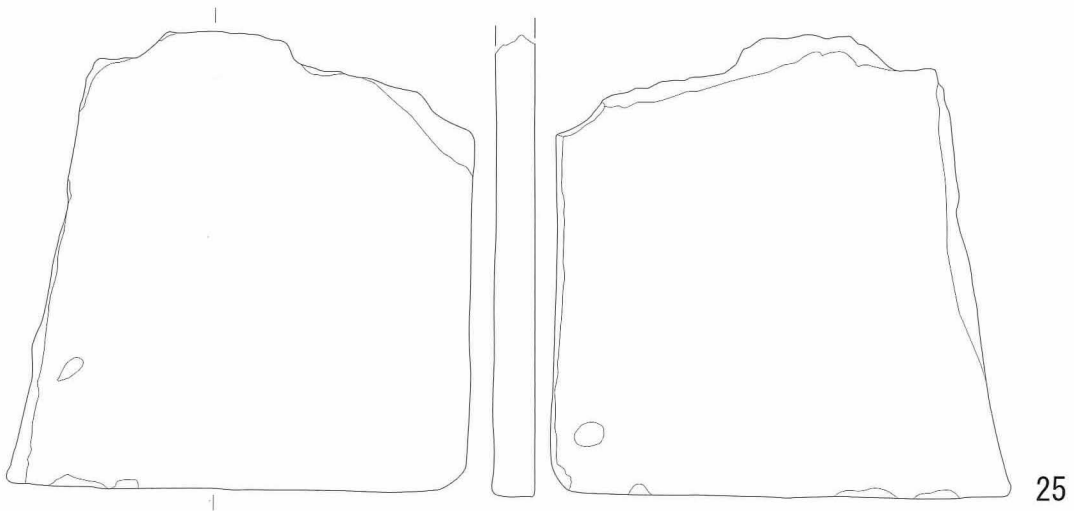
13) は土鍋の蓋である。飛び鉤に加え鉄槳が刷毛塗りされ、さらに白泥を用いた



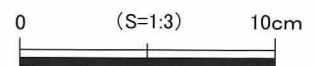
22



24



25



第23図 光善寺庭園出土遺物(2)

筒描きが施される。19世紀代の所産とみられる。

14)・15)・16)は上野・高取系陶器の中甕である。14)は内外面に茶褐色の鉄釉が施され、内面に顕著なロクロ残る。15)は外面に黄褐色の鉄釉が施され、無い名には鉄漿が塗られる。口縁部はT字型に肥厚し、上面の釉が拭き取られる。16)は外面に茶褐色、内面に黒色の鉄釉が施される。いずれも19世紀中葉の所産である。

17)・18)・19)は軒瓦である。いずれも燻瓦で、2次被熱により一部白色化している。20)は鉄釉が施された軒瓦である。21)は巴瓦である。燻瓦であるが、2次被熱により一部白色化している。22)は鯉面戸瓦である。燻瓦で、欠損や2次被熱の痕跡はみられない。23)・24)・25)・26)・27)は棧瓦である。いずれも燻瓦で、2次被熱により一部白色化している。

28)は石錘である。29)はいわゆる北海道式石冠である。風化により表面がもろくなっている。30)・31)は緑色泥岩の磨製石斧で、全体に擦痕が認められる。28)・29)は州浜の砂利に混じていたものである。

32)は銅製の留具とみられる。表面の地文は魚子で、陰刻により唐草文が施される。3ヶ所に鋳を打つ穴が開いている。33)は寛永通寶で、寶字下部が「ハ宝贝」となっていることから、寛文8年(1668)以降に鑄造された新寛永通宝である。

(佐藤)

#### 4. まとめ

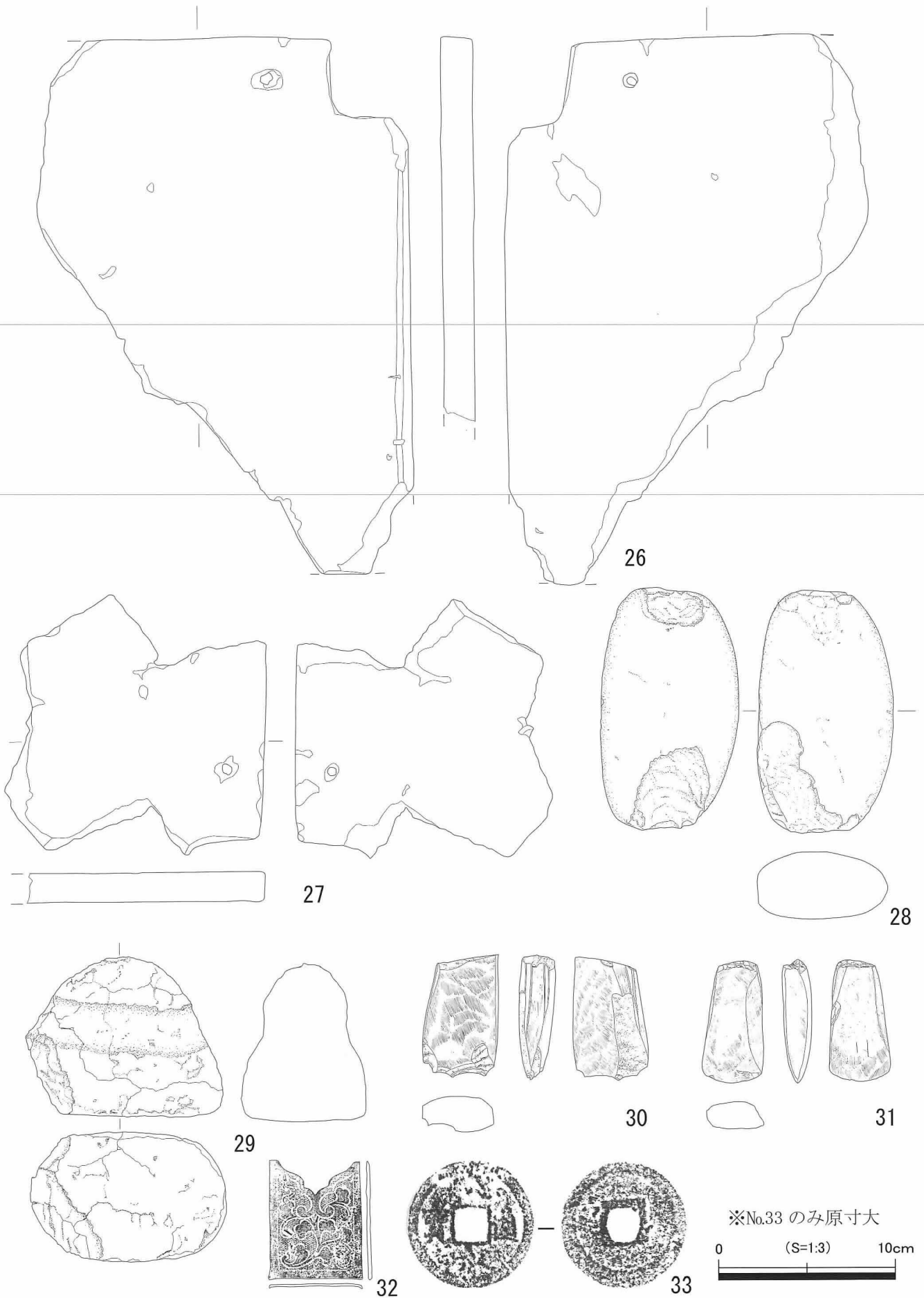
まず、昨年度の成果も踏まえて庭池の造成についてまとめてみたい。庭池は池岸から急角度で掘り込まれており、平坦な池底となる。さらに、地山直上に黒色土・黒褐色土の流れ込みが確認でき、その上に火災残滓を含む土砂を埋め戻し、ロームを版築して池底を均している。このロームより下層からはガラス片が出土せず、19世紀中葉の陶磁器がもっとも新しい遺物であることから、ローム版築は幕末～明治初期とみられる。版築ロームの上にさらに火災残滓を含む土砂が堆積しているが、ガラスや近代の陶磁器などが含まれることから、明治36年本堂火災の残滓処理による堆積とみられ、現況の庭池及び出島が形成されたのはこれ以降となる。

次に、滝口石組遺構及び州浜については、トレンチの土層断面や地表面からの観察により、その多くが明治36年の火災残滓を含む土層上に据えられていることが判明した。また、光善寺住職への聞き取り調査では、最近時まで州浜や景石の移動があり、一部は本堂南側の庭園を造成する際に抜き取られたという証言があることから、現況の庭園の景観は最近時のものである可能性が高い。

導水・排水遺構については、今年度の調査でも検出することはできず、少なくとも明治36年以降は州浜を用いた枯山水庭園であったと判断するに留まる。しかし、光善寺の西を流れる坊主沢から築山裏手まで延びるトンネルが存在しており、これが築庭当初、導水路として掘削された可能性も考えられる。

来年度の課題は、庭池が掘り込まれた時期とその理由を精査すること、築庭当初の景石の特定と抜き取り痕の把握、導水施設の可能性があるトンネルの地下レーダー探査などが挙げられる。

(佐藤)



第24図 光善寺庭園出土遺物(3)

表3 堀廻り地区出土遺物観察表

図番号	材質	種別	口径	底径	器高	成形・装飾技法	産地	製作年代	出土地点
			長さ	幅	厚さ				
1	磁器	小皿	(14.4)	(7.2)	4.1	ロクロ成形/白磁 口縁輪花型	肥前	17世紀前葉	TP-7
2	磁器	小皿		4.5		ロクロ成形/染付 花盆文	肥前	17世紀前葉	TP-2
3	磁器	小坏	(8.4)	(2.7)	3.6	ロクロ成形/染付 唐草文	瀬戸・美濃系	19世紀中葉	TP-10
4	磁器	小坏			(2.7)	ロクロ型打ち成形/染付 花卉文	瀬戸・美濃系	19世紀中葉～後葉	TP-7
5	陶器	小皿		(4.8)		ロクロ成形/灰釉 胎土目積み	肥前	17世紀前葉	TP-8
6	陶器	土鍋				ロクロ成形/透明釉 行平鍋	不明	19世紀	TP-6
7	土器	焼塩壺	6.6					18世紀	TP-10
8	土器	焼塩壺	6.6	5.1	8.4			18世紀	TP-10
9	磁器	紅皿	5.1	1.2	1.8	型押し成形/白磁	肥前系	19世紀	TP-1
10	陶器	播鉢				ロクロ成形/鉄釉	肥前	17世紀後葉～18世紀初頭	TP-10
11	陶器	中甕			12.3	ロクロ成形/鉄釉	上野・高取系	19世紀中葉	TP-5
12	陶器	中甕				ロクロ成形/鉄釉	上野・高取系	19世紀中葉	TP-5
13	瓦	軒瓦				燻瓦	不明	19世紀	TP-10
14	瓦	棧瓦				鉄釉	不明	19世紀	TP-10
15	瓦	棧瓦				鉄釉薬	不明	19世紀	TP-7

表4 光善寺庭園出土遺物観察表

図番号	材質	種別	口径	底径	器高	成形・装飾技法等	産地	製作年代	出土地点
			長さ	幅	厚さ				
1	磁器	小坏	(8.4)	(3.6)	5.9	ロクロ成形/染付 流水文	肥前	18世紀末葉～19世紀前葉	TP-10
2	磁器	小坏	12.0	3.6	3.6	ロクロ成形/染付 草文	瀬戸・美濃系	19世紀中葉	TP-12
3	磁器	小坏				ロクロ成形/染付 源氏香文	瀬戸・美濃系	19世紀中葉	TP-14
4	磁器	小坏	(6.9)	(2.7)	3.3	ロクロ成形/染付	瀬戸・美濃系	19世紀中葉	TP-9
5	陶器	小坏			3.6	ロクロ成形/藁白釉	不明	19世紀	TP-12
6	磁器	蓋	(3.9)			ロクロ成形/染付	肥前	19世紀前半	TP-12
7	磁器	小皿	8.4	3.9	2.4	型押し成形/白磁	瀬戸・美濃系	19世紀中葉	TP-12
8	陶器	蓋	(3.6)	(3.9)	1.8	ロクロ成形/鉄釉	不明	19世紀	TP-12
9	磁器	香炉	(6.3)			ロクロ成形/青磁	不明	19世紀	TP-12
10	磁器	香炉				ロクロ成形/染付 桜花文	肥前系	19世紀	TP-11
11	磁器	仏花瓶	(8.7)			ロクロ成形/染付 人工具須を使用 花卉文	不明	19世紀中葉～後葉	TP-11
12	磁器	徳利				ロクロ成形/染付	肥前系	19世紀前葉～中葉	TP-8
13	陶器	蓋				ロクロ成形/鉄漿 飛び匏 白泥による筒描き	不明	19世紀	TP-17
14	陶器	中甕		(11.7)		ロクロ成形/鉄釉	上野・高取系	19世紀中葉	TP-12
15	陶器	中甕				ロクロ成形/鉄釉	上野・高取系	19世紀中葉	TP-12
16	陶器	中甕		(11.4)		ロクロ成形/鉄釉	上野・高取系	19世紀中葉	TP-12
17	瓦	軒瓦							TP-12
18	瓦	軒瓦							TP-11
19	瓦	軒瓦							TP-12
20	瓦	軒瓦							TP-11
21	瓦	巴瓦							TP-11
22	瓦	懸面戸瓦	19.2	4.5	3.6				TP-12
23	瓦	棧瓦							TP-12
24	瓦	棧瓦							TP-11
25	瓦	棧瓦							TP-16
26	瓦	棧瓦							TP-12
27	瓦	棧瓦							TP-15
28	石器	石錘	13.8	7.5	3.9			縄文時代	表採
29	石器	すり石		8.7	9.0	北海道式石冠		縄文時代	表採
30	石器	石斧		4.2	2.1	緑色泥岩		縄文時代	TP-18
31	石器	石斧	6.9	3.6	1.5	緑色泥岩		縄文時代	TP-17
32	銅	留金	6.6	5.1	0.1	唐草文			TP-11
33	銅	古銭	2.4	2.4	0.2	寛永通宝		寛文8年(1668)以降	TP-11

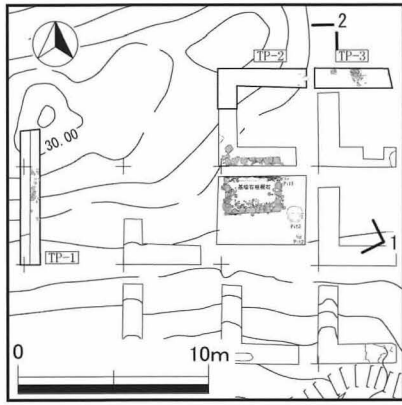
## 参考文献

- ・『史跡 松前氏城跡福山城跡Ⅴ』平成19年度発掘調査報告書 松前町教育委員会 2008
- ・『史跡 松前氏城跡福山城跡Ⅵ』平成21年度発掘調査報告書 松前町教育委員会 2010
- ・『史跡 松前氏城跡福山城跡Ⅶ』平成22年度発掘調査報告書 松前町教育委員会 2011
- ・『神明石切り場跡Ⅱ』平成20年度町内遺跡発掘調査報告書 松前町教育委員会 2009
- ・『福山城・福山城下町遺跡』道道松前港線改良工事に関わる発掘調査報告書 松前町教育委員会 2006
- ・『福山城下町遺跡Ⅳ』道道松前港線改良工事に関わる発掘調査報告書 松前町教育委員会 2008
- ・『神明石切り場跡Ⅲ 大館遺跡 バッコ沢牢屋跡遺跡』平成21年度町内遺跡発掘調査報告書 松前町教育委員会2010
- ・『神明石切り場跡Ⅳ バッコ沢牢屋跡遺跡Ⅱ 日枝社通遺跡 福山城(天神坂)』平成22年度町内遺跡発掘調査報告書 松前町教区委員会 2011
- ・『松前の文化財』松前町教育委員会 2011
- ・『庭研』204号「光善寺庭園(北海道松前町)について」吉河 功 日本庭園研究会 1980
- ・『庭研』209号「松前・光善寺庭園の滝石組」吉河 功 日本庭園研究会 1981
- ・『北海道の文化』53「松前光善寺の古庭復元 その後(一)」丸山恵照 北海道文化財保護協会 1985
- ・『造園大辞典』上原敬二 編 加島書店 1978



# 写真図版

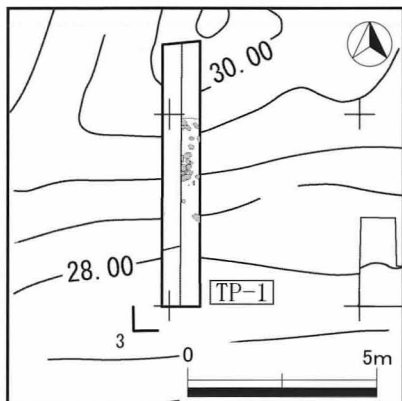




1. 土塁近景(1)  
堀廻り地区北端、寺町地区との境界にみられる土塁にTP-1・2を設定した。

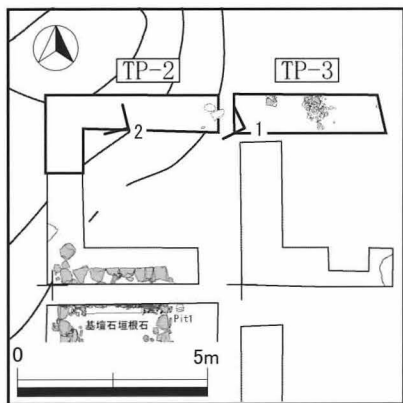


2. 土塁近景(2)  
土塁を寺町側から見た状況。



3. TP-1  
トレンチ底面が嘉永3年築城以前の地表面、それより上層が安政元年新城完成以降の堆積土である。

図版2 堀廻り地区TP-2～6



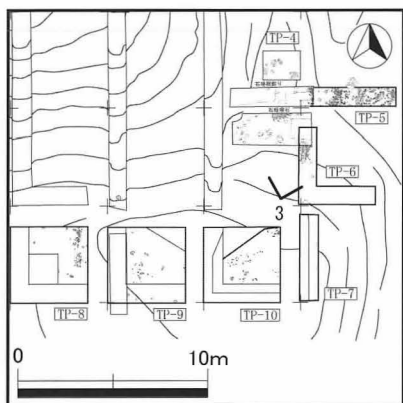
1. TP-2・3

グリッド杭よりやや奥まで  
ロームが敷かれており、嘉永  
3年築城時の地表面の可能性  
がある。



2. TP-2

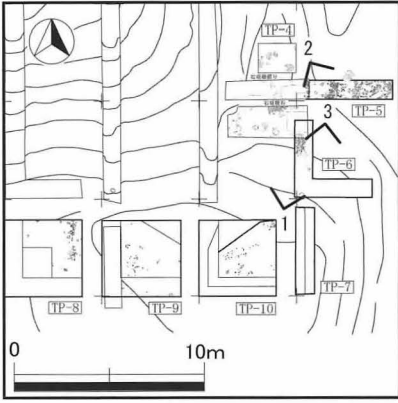
築城時に出土とみられるグ  
リーントフのハツリ層が集中  
的に堆積する。



3. TP-4～6 近景(1)

TP-4～6 設定地点である。  
過年度の調査で本丸土居  
石垣根石や根掘りが検出され  
ている。





1. TP-4~6近景(2)

TP-4~6調査状況。いずれのトレンチも、底面が嘉永3年築城以前の地表面とみられる。



2. TP-5

築城時に出たグリーンタフのハツリ屑が散布する。

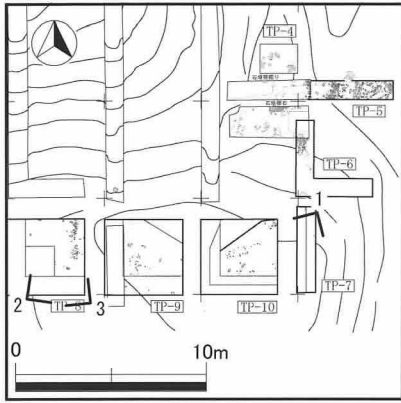


3. TP-6

近代以降の土砂が厚く堆積する。



図版4 堀廻り地区TP-7~10



1. TP-7

明治8年廃城前の堆積である黄褐色土が南側へ落ち込んでいる。上層の黒褐色土は近・現代の堆積土である。



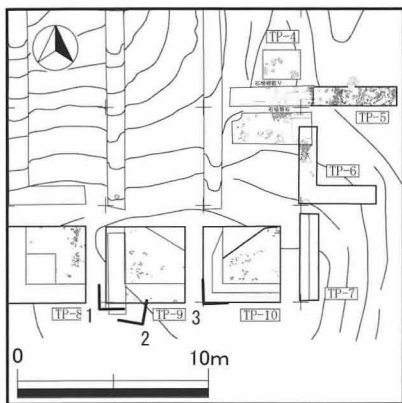
2. TP8~10 近景

平面発掘した部分の底面が、明治8年廃城時の地表面とみられる。



3. TP-8

西へ向けてゆるやかに傾斜する地形である。柵列等の遺構は確認できなかった。



1. TP-9 全景  
 ここでも柵列等の遺構は確認できない。

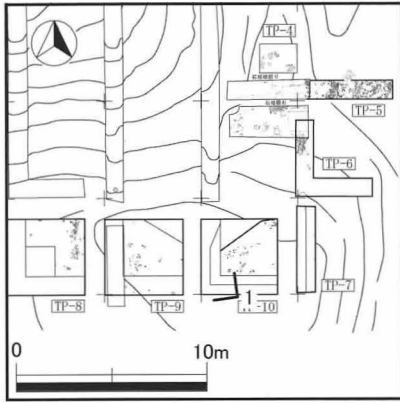


2. TP-9 西面セクション  
 写真右上にみられる黒色土層の上面が、嘉永3年築城以前の地表面である。



3. TP-10  
 グリッド北東部分は整地盛り土とみられるシミが確認できる。

図版6 堀廻り地区TP-10・出土遺物



1. TP-10西面セクション  
トレンチ中央の掘り込みは廃  
城以前の堆積土を切ってい  
る。

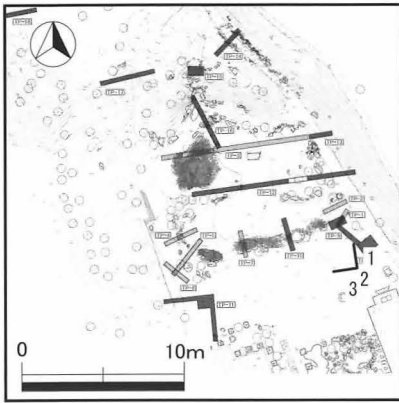


2. 堀廻り地区出土遺物 (1)



3. 堀廻り地区出土遺物 (2)





1. 全景（1）

調査前の全景である。樹木が繁茂して地形が隠れている。



2. 全景（2）

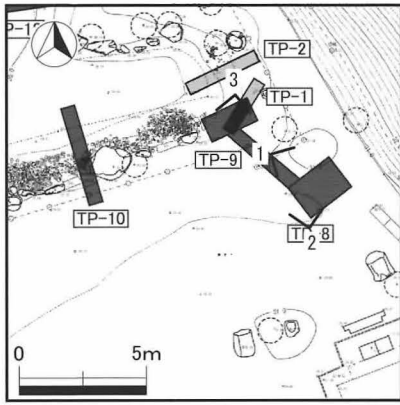
調査終了後の全景である。樹木の葉が落ち、地形がやや見えるようになった。



3. 全景（3）

昭和56年に日本庭園研究会による手入れがなされた直後の状況である。支障木や崩落土を撤去され、地形がよく判る。写真左奥に見える御髪山が借景として取り入れられている。





1. TP-8 (1)

土塁と庫裏の間に向かってコンクリート側溝が延びるため、排水遺構の存在が想定された。



2. TP-8 (2)

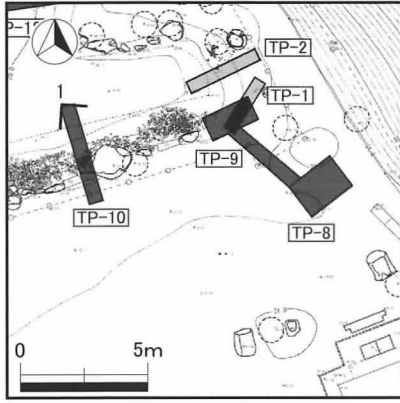
調査の結果、トレンチ底面が築庭時の整地層とみられ、排水遺構は確認できなかった。



3. TP-9

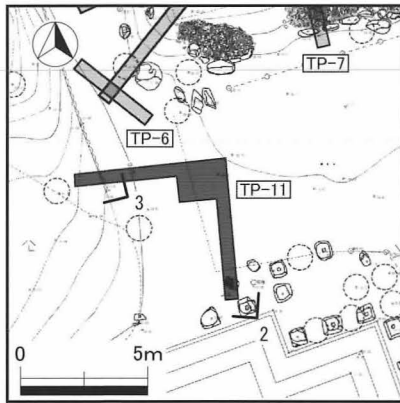
池岸からの落ち込みは過年度調査トレンチと同様だが、この地点では火災残滓を含む土砂の間にロームの版築を確認することはできない。





1. TP-10

巨大な拝石は、最近時の堆積土である暗褐色土の上に据えられている。



2. TP-11 (1)

庭池南西側のトレンチである。トレンチ南側にかかる花崗岩の礎石は、明治36年に焼失した本堂のものである。

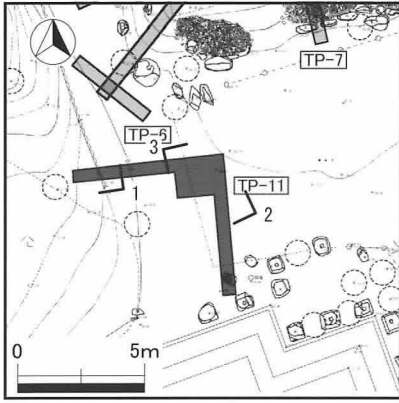


3. TP-11 (2)

庭園東側にある盛り土は、明治36年本堂火災の瓦礫を廃棄したものと伝わる。

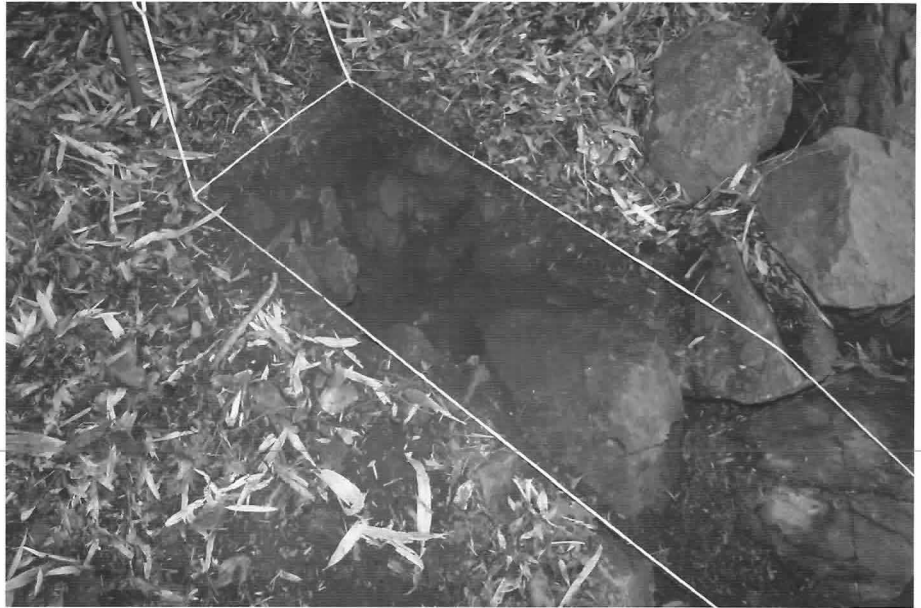


図版10 光善寺庭園TP-11



1. TP-11 (3)

庭園東側盛り土を調査したところ、火災残滓が大量に含まれていた。出土遺物から、明治36年本堂火災に伴うものと判断される。



2. TP-11 (4)

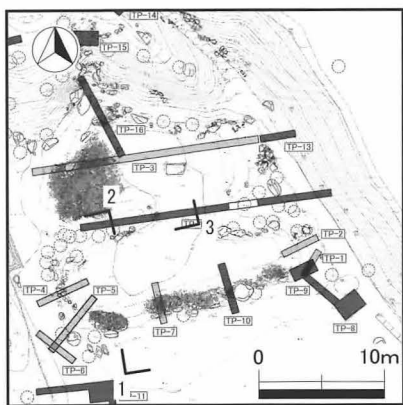
トレンチ底面は非常に硬く締まっており、炭化物の集中や焼土を検出した。明治36年本堂火災時の地表面とみられる。



3. TP-1 (5)

写真手前は、燻瓦を垂直に並べた雨受けとみられる遺構である。





1. TP-12 (1)

トレンチ設定箇所の近景。西側出島の中央部分はやや凹んでいる。



2. TP-12 (2)

西側出島部分のトレンチ。庭池北西にある州浜の延長を確認した。

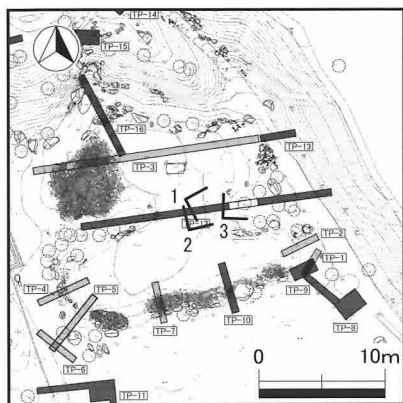


3. TP-12 (3)

庭池部分のトレンチ。現地表面から80cm掘り下げたところで、ロームの版築を検出した。



図版 12 光善寺庭園 TP-12



1. TP-12 (4)

庭池から東側出島にかけてのトレンチ。明治36年本堂火災以前の地表面とみられる暗褐色土の立ち上がりが確認できる。



2. TP-12 (5)

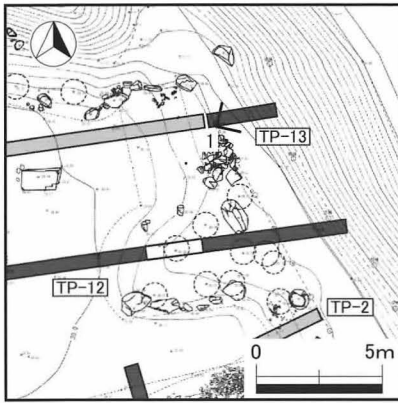
ロームの版築を剥いだところ、方形の掘り込みを確認した。埋土には燻瓦や19世紀中葉の磁器片が含まれる。



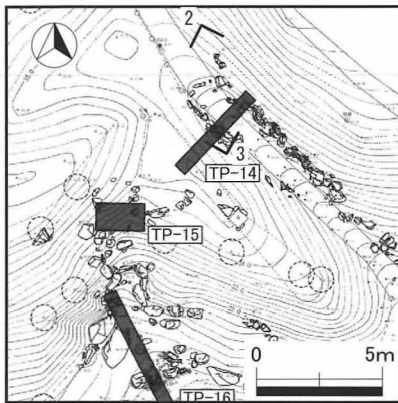
3. TP-12 (6)

東側出島部分のトレンチ。庭池の落ち込みが確認できる。写真左上の巨石は、明治36年以降の堆積土を掘り込んで据えられている。





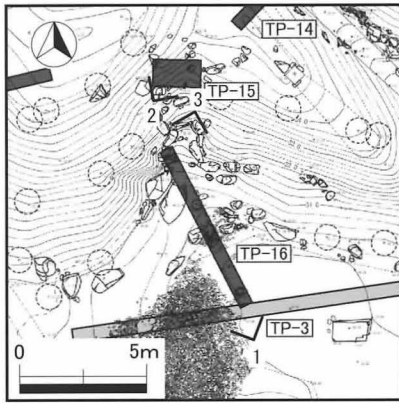
1. TP-13  
埋土にコカ・コーラ缶が混入していた。昭和54年ころの掘り込みである。



2. TP-14 (1)  
庭園東側の土塁に沿って通路がある。築山と土塁の間には、石による土留めがなされる。



3. TP-14 (2)  
旧来は西方のボウズ沢へと落ち込む傾斜地であった部分に、盛り土による築山を構築し、通路を造るために削平したとみられる。



1. 滝口石組近景

滝口石組の輪郭を明らかにするため、枯葉・雑草を除去したところ、部分的に州浜が現れた。



2. TP-15

滝口石組上部のトレンチ。流水を表現する砂利敷きを検出した。中央には平らな凝灰岩が据えられ、その下は空洞になっている。

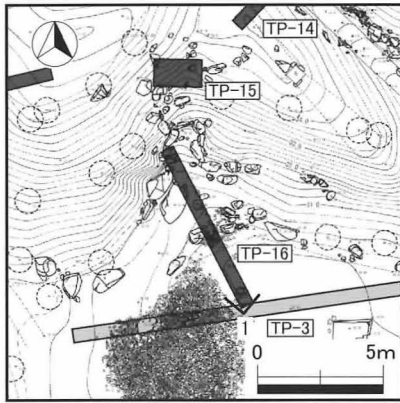


3. TP-16 (1)

滝口石組下部のトレンチ。表土を除去すると、昭和56年に日本庭園研究会が整備した州浜が現れた。

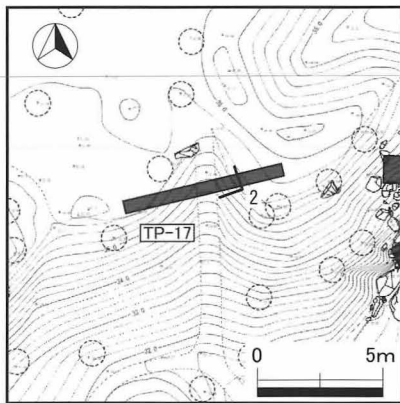






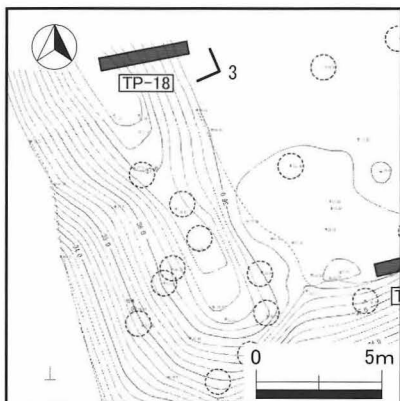
1. TP-16 (2)

地山ロームまで掘り下げた状況。州浜・滝口石組の多くは、明治36年以降の土層に据わっている。



2. TP-17

トレンチ中央の溝が掘られたのは極めて最近であって、本来は一続きの築山であった。



3. TP-18

築山裏の平坦面東側にみられる土塁である。遺物から判断して構築時期は18世紀末葉以降とみられる。





1. 光善寺庭園出土遺物 (1)



2. 光善寺庭園出土遺物 (2)



3. 光善寺庭園出土遺物 (3)

# 報告書抄録

ふりがな	しせき まつまえししろあと ふくやまじょうあと							
書名	史跡 松前氏城跡 福山城跡Ⅷ							
副書名	平成23年度年度発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号	Ⅷ							
編著者名	前田正憲・佐藤雄生							
編集機関	松前町教育委員会							
所在地	〒049-1594 北海道松前郡松前町字神明30番地 TEL. 01394-2-3060							
発行年月日	平成24 (2012) 年3月23日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / "	東経 ° / ' / "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しせきまつまえししろあと 史跡松前氏城跡 ふくやまじょうあと 福山城跡 たてじょうあと 館城跡 のうち ふくやまじょうあと 福山城跡	ほっかいどうまつまえぐん 北海道松前郡 まつまちょうあぎまつしろ 松前町字松城	01331	B-02-53	41度 25分 38秒	140度 6分 41秒	20100730 ～ 20101029	94	史跡整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
史跡松前氏城跡 福山城跡 館城跡 のうち 福山城跡	城跡	幕末～明治	本丸土居石垣根掘り跡・土塁 滝口石組・州浜・庭池・築山		縄文土器・石器・幕末陶磁器等			
要約								
<p>今年度の調査により、本丸土居側旧地形が概ね判明した。これまでの調査成果から、滝口石組は明治以降、公園化した際に構築された可能性が極めて高いと考えられる。また、本丸土居石垣はほぼ抜き取られ、盛り土による整地がなされていたが、根掘りや根石を検出することができ、安政元年（1854）築城時に描かれた『福山城見分図』と位置関係が一致した。</p> <p>光善寺庭園については、滝口石組・庭池・東西出島のおおよその構築年代が判明したが、導水・排水遺構を検出するには至らなかった。</p>								



---

史跡 松前氏城跡

福山城跡Ⅷ

—平成23年度 発掘調査報告書—

発行：平成24年3月23日

発行者：北海道松前町教育委員会

印刷：(株)長門出版社 印刷部

---



**史跡松前氏城跡福山城跡Ⅷ**  
**平成 23 年度 発掘調査報告書**  
**電子版**

2025 年 1 月 31 日 第 1 刷

発行者 北海道松前町教育委員会

〒049-1594 北海道松前郡松前町字神明 30

TEL:0139-42-3060/FAX:0139-42-2211

WEB:<https://www.town.matsumae.hokkaido.jp/bunkazai/>

MAIL:[bunkazai@town.matsumae.hokkaido.jp](mailto:bunkazai@town.matsumae.hokkaido.jp)

底本：史跡松前氏城跡福山城跡Ⅷ 平成 23 年度 発掘調査報告書  
(2012 年 北海道松前町教育委員会発行)

この電子書籍は閲覧を目的としているため、不鮮明な図版や誤字が含まれる場合があります。必要に応じて、お近くの図書館等で底本をご利用ください。